

令和8年度 徳島県サービス管理責任者等 基礎研修

第2日目 演習

(国研修資料より抜粋)

1

演習1(個別支援計画の作成)ガイダンス

【演習1の目的】

モデル事例を活用した**グループワーク**により、**サービス等利用計画**に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。

それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、**個別支援計画を作成**する。

2

各グループの想定

演習1(個別支援計画の作成)

- ・演習1及び2では、共同生活援助と就労継続支援B型のいずれかの事業者のサービス管理責任者の役割を体験します。
- ・以後はグループでそれぞれの事業者に分かれて演習を進めます。

奇数班→「共同生活援助」事業者
(グループホーム ピアハウス)

偶数班→「就労継続支援B型」事業者
(スマイル)

3

共同生活援助事業所

グループホームピアハウス
(介護サービス包括型)
※夜間は連絡体制のみ

入居者 現在 男性4名利用中



サービス管理責任者
北島 たかし

普段は別にある事務所に
いて他に2ヶ所のホーム
も見ている



世話人
三好 よしこ

月～金 6:00～9:00
15:00～20:00

入居定員4名
建物 戸建住宅 5LDK
居室4室(8畳)、世話人室、リビング
(共有スペース)、
お風呂、トイレ、洗面所、キッチン共有

【立地】
住宅地の一角にあり、すぐ隣には公園がある



バス停まで
徒歩15分程度

徒歩5分にコンビニ・スーパー



4

ピアハウスの1日の流れ

時間	利用者	サビ管・世話人等
6:30	起床・洗面・着替え	起床支援・健康状態の把握（バイタルチェック）
7:30	朝食・服薬・歯磨き	朝食の用意・食事や更衣の支援・服薬の支援・清掃・後片付け・連絡帳記録等
8:30	日中活動場所へ通所	送り出し
9:00 16:00	日中活動 休日は外泊や余暇活動	日中支援（休まれた方等・休日・昼食用意） 世話人（15:00～）
16:30	ホームへ帰所 帰所後、入浴や洗濯	健康状態の把握（バイタルチェック） 夕食の用意・入浴・洗濯の支援
18:00	夕食 服薬・片付けや入浴、団らんの時間	食事の支援・相談支援・金銭管理 世話人（～20:00）
21:00	自身室へ入り就寝	

5

就労継続支援B型事業所

スマイル

多機能型事業所

- ・就労移行支援事業：定員12名
- ・就労継続支援B型事業：定員20名

現在の利用者は、身体・知的・精神
など多様な障害種別の人が利用

【営業時間】平日9:30～16:00
土日祝は休み

【職員構成】

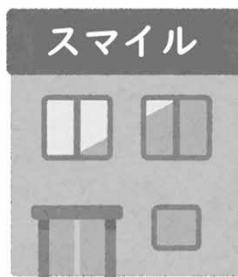
管理者1名、サービス管理責任者1名
職業指導員3名、生活支援員2名、
就労支援員1名



サービス管理責任者
板野 かおり



職業指導員
吉野 まさお



【事業所所在地】

人口25万人の県庁所在地の郊外

太郎さんが利用を予定しているグループホームからはバスで10分
（徒歩ならば45分かかる）の距離

【作業内容】

- ・カフェ（接客、皿洗い、調理補助等）
工賃：時間200円～400円
- ・組み立て作業
工賃：時間200円～400円
- ・施設外就労
（運送会社での倉庫内作業・袋詰め作業）
工賃：時間400円～580円

6

スマイルの1日の流れ

時間	利用者	サビ管・生活支援員・職業指導員等
8:00	通所（自力又は送迎利用）	送迎・体調確認・出席確認・作業指示・連絡調整
9:30	朝礼（作業の確認）・作業場への移動	
9:30	各現場で作業開始	移動支援・作業指示・作業支援・進捗管理・相談援助 （カフェ業務・組み立て作業・施設外就労）
10:30	休憩（15分）	
10:45	作業開始	
12:00	昼食（給食等）・休憩（1時間）	配膳、下膳の支援・服薬の支援・口腔ケアの支援
13:00	午後の作業開始	作業指示・作業支援・進捗管理・相談援助 相談援助等
14:30	休憩（15分）	
14:45	作業開始	
16:00	終業・送迎・帰宅	送迎・帰宅支援・連絡調整・記録・会議等

7

【演習1スケジュール】

演習1（個別支援計画の作成）

- ①利用者概要の把握とサービス担当者会議への参加準備
（グループワーク）
- ②模擬サービス担当者会議（ロールプレイ）
- ③個別支援計画作成にあたり本人との面談
（グループワーク・ロールプレイ）
- ④個別支援計画の作成・発表（グループワーク・発表）

8

グループワーク・ロールプレイでの 役割について

グループワークの司会、記録やロールプレイの配役は、事前に各班共通の個人アルファベット（A～F）により決定しています

資料の演習１・２役割分担表を確認して下さい

各自のアルファベットは、各班名簿で確認して下さい

**当日、休み等で欠番がでた場合は、
以後順次番号を繰り上げて下さい**

9

グループワーク活性化のためのグランドルール

- ◆グループメンバーの一人ひとりが、自身の考えを積極的に発言しましょう。
- ◆発言は短く、簡潔に。（一回の発言は1～2分）
- ◆他のメンバーの話に耳を傾けましょう。
- ◆他のメンバーの意見を否定せず、受け止めましょう。
- ◆アイデアの共通点を見つけながらつなぎ合わせましょう。
- ◆ホワイトボード等を活用して、議論を目で見えるようにしましょう。
- ◆テーマに意識を集中して話し合いましょう。

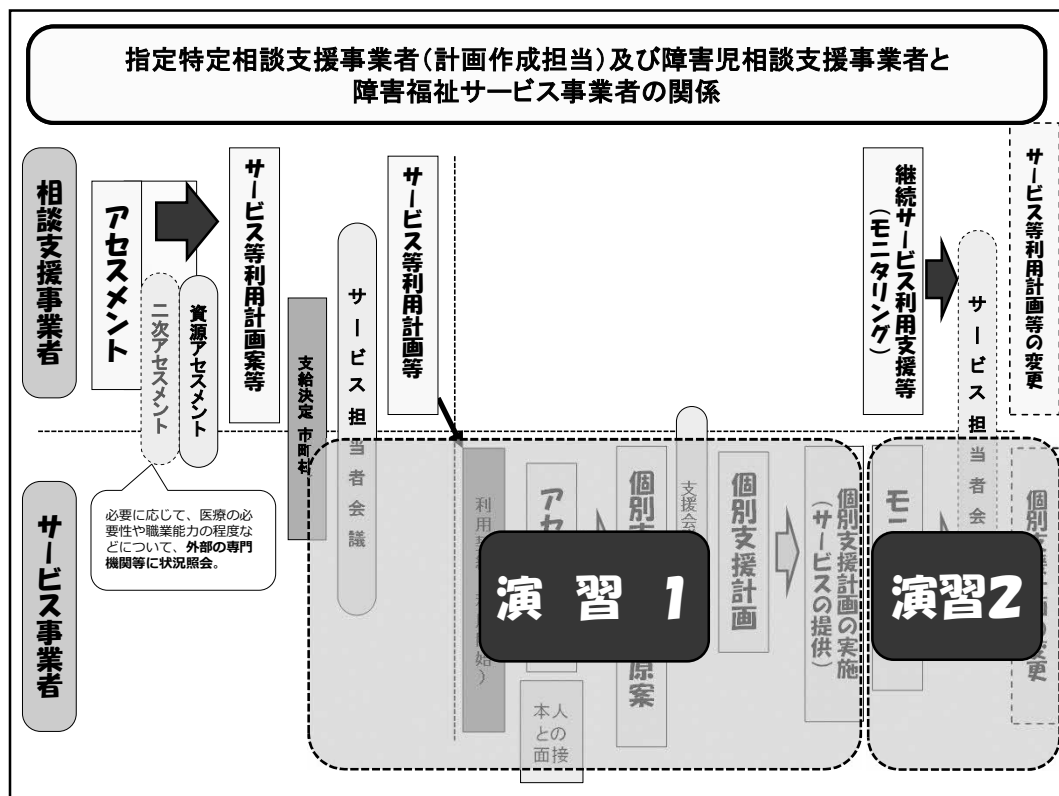
10

10

ファシリテータについて

各会場に1名と各班に1名のファシリテータを配置しています。
不明な点は随時質問をして下さい。
ファシリテータは答えを持っているわけではありません。
各班の自主的な考察が進むよう助言を行います

11



12

演習1(個別支援計画の作成)

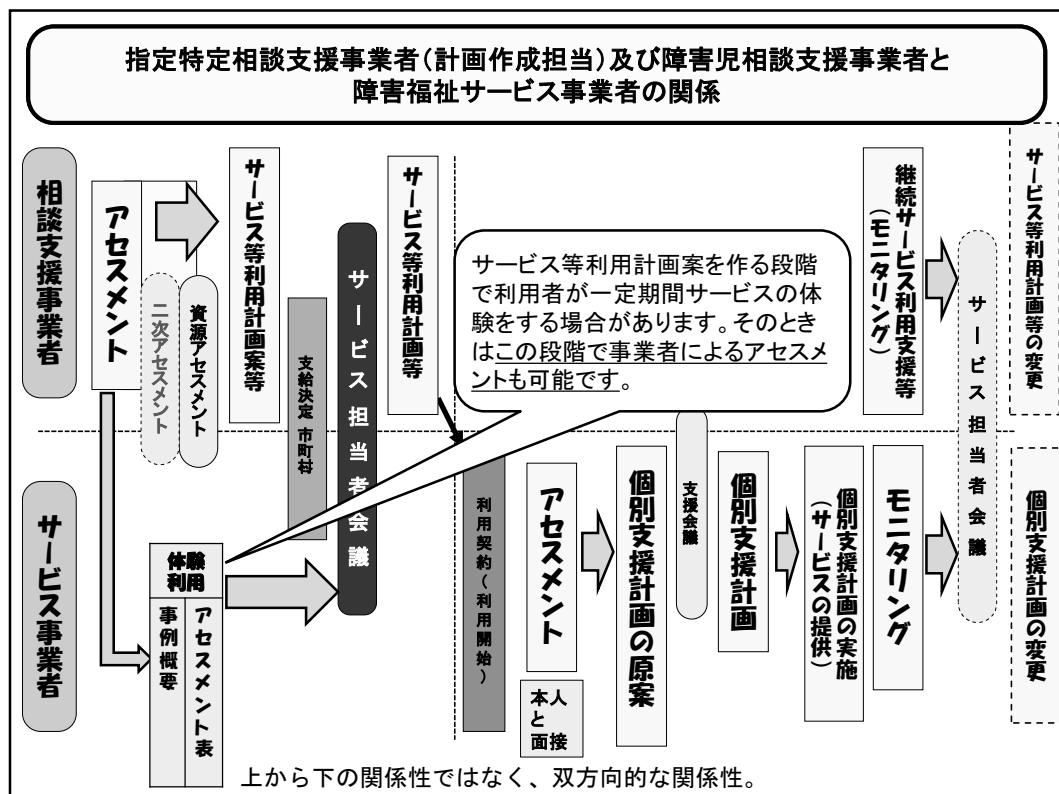
①利用者概要の把握とサービス担当者会議への参加準備

サービス担当者会議は・・

主に相談支援専門員が企画・調整・運営するものであるが、招集され参加するサービス管理責任者等は求められることのみで答えるのではなく、支援を担当する主体としてサービス担当者会議に出席することが必要である。

そのためには事前準備等を行う必要があるとともに、サービス担当者会議が適切に運営されているかどうかを観察し、必要に応じて運営を補助することも必要となることについて確認する

13



14

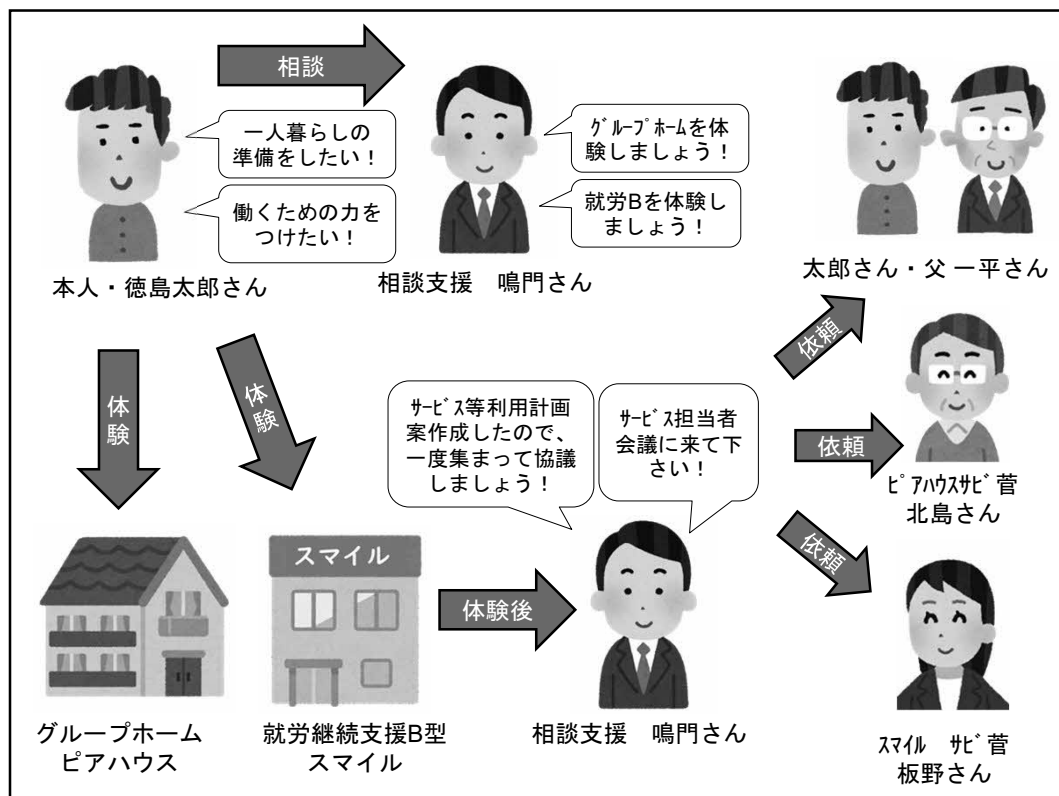
○現在の状況設定の確認

対象者：徳島太郎さん



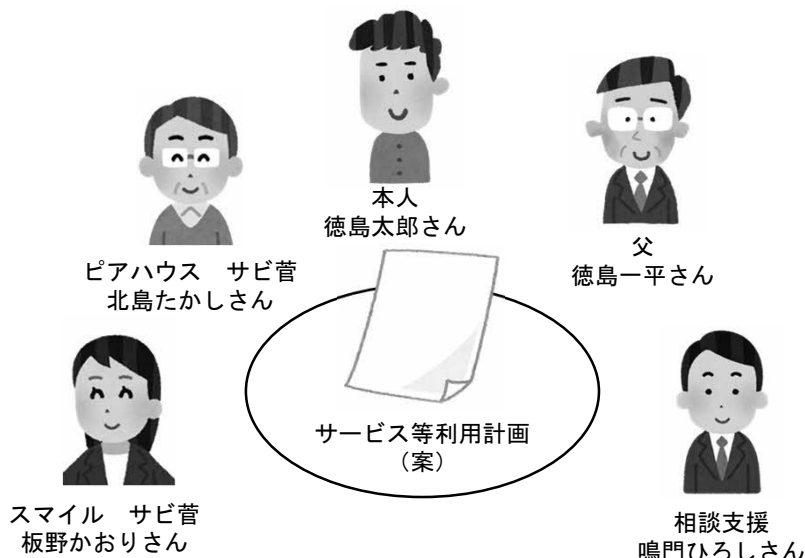
相談支援センターひわまりにて相談を受け、グループホーム及び就労継続型で体験を行い、サービス等利用計画案に基づき、相談支援専門員の開催するサービス担当者会議に参加することとなった。

15



16

サービス担当者会議



17

サービス等利用計画 (案)							
利用者氏名	徳島 太郎	障害支援区分	区分 3	相談支援事業者名	相談支援センター ひまわり		
障害福祉サービス受給者証番号	000000000	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	鳴門 ひろし		
地域相談支援受給者証番号	000000000	通所受給者証番号	000000000				
計画作成日	令和 〇年 〇月 〇日	モニタリング期間 (開始年月)	令和 〇年 〇月	利用者同意署名欄			
利用者及びその家族の生活に対する意向 (希望する生活)	太郎さんは、特別支援学校の高等部卒業後一般企業で働いていたが、「上司の注意が怖い。仕事に集中できない」と言って退職した後はひきこもりがちな生活をしてきた。昨年、父親が交通事故で右半身に後遺症が残り、太郎さんの面倒を見られなくなった。太郎さんは、「父親に世話になったので迷惑をかけたくない」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」「自分のことは自分でできるようにしたい」という希望を持っているが、「今は朝も起きられない」「働く自信もない」のでそのための「準備をしたい」と思っている。また、「困りごとは相談したい」と言う気持ちがあり、一人暮らしに向けた準備をするためのグループホームの利用と就労に向けて準備をするための就労継続支援B型の通所を希望している。また、「昆虫の話ができる友達が欲しい」と思っている。 父親は「私も体が不自由になってしまい 太郎の面倒はみられません。太郎には福祉サービスを利用して自立してほしい」と言っている。						
総合的な援助の方針	グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみをみつけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。						
長期目標	① グループホームでは、掃除や洗濯、調理等の生活していく上での力をつける。 ② 就労継続支援B型事業所では、仕事を続けていくうえでの自信をつける。 ③ 相談する力をつける。 ④ この間に見つけた昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみを継続する。						
短期目標	① グループホームの日常生活に慣れる。 ② 就労継続支援B型事業所の作業に慣れる。 ③ わからないことや困っていることを相談する。 ④ 昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて相談する。						
優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 (種類・内容・量・頻度・時間)	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	グループホームで一人暮らしに向けた準備をしたい。	グループホームの生活に慣れて、掃除や洗濯、調理等自分でできることを増やす。	12ヶ月	グループホーム 毎日	スケジュールを覚えて生活リズムを身に着ける。掃除や洗濯、調理の仕方は、世話人さんに教えてもらいます。	3ヶ月	*朝なかなか起きることができない
1	今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。	いろいろな作業経験を積んで得意なことを見つける。	12ヶ月	就労継続支援B型 月～金	就労継続支援事業所での作業を通して経験を増やします。	3ヶ月	*朝なかなか起きることができない
3	困りごとは相談したい。	生活のこと、仕事のことなどで困ったり、不安だったことなどを相談できるようにする。	6ヶ月	グループホーム 毎日 就労継続支援B型 月～金 相談支援事業所 随時 病院 4週間に1回 土曜	グループホームで一日の出来事を報告します。 仕事については、就労継続支援事業所で相談します。 服薬をして定期的に通院します。	1ヶ月	
4	楽しみをみつけない。	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴きます。	6ヶ月	グループホーム 就労継続支援B型 相談支援事業所	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かせてください。	3ヶ月	

18

利用体験の記録

グループホーム ピアハウス

体験者	徳島太郎さん	期間	3日間	記録者	世話人
様子	・日常生活動作（ADL）は自立しているが、一部整容等は声掛けが必要 ・当初は緊張と不安もみられたが、次第に緩和してきた様子 ・精神面も安定している ・自発的な相談等はなし ・声掛け助言に対しては素直に応えることができる ・同居者とのトラブルはないが、関わりも少ない ・家事全般は経験が少なく、支援が必要だか、習得していける可能性あり ・食べ物に偏りは少ないが、体重が気になる（減量が必要？） ・服薬（夜寝る前）は自身管理（本人は飲んでいるとのこと） ・就労 B については「楽しい」と言っている ・朝が起きづらい（声掛けが必要）				

19

利用体験の記録

就労継続支援 B 型 スマイル

体験者	徳島太郎さん	期間	3日間	記録者	職業指導員
様子	・送迎サービスを利用（バス通所の可能性あり） ・朝迎え時時間に遅れてしまうことがある ・当初は緊張と不安もみられたが、次第に緩和してきた様子 ・期間中、予定通り通所（休みなし） ・「部品の組み立て」作業を体験 ・作業の意欲も感じられ作業指示には素直に従うことができる ・作業には終日、集中力を保ってできており早退はなし ・手順はゆっくりと説明することで習得できている ・精神的には安定しているが、ミスがあった場合等はイライラしている場面もあり ・精神面は安定しているが、父親の心配する発言もあり ・他の利用者とのトラブルはないがまだ関わりも少なく、主として職員とのみ会話 ・グループホームでの生活については「楽しい」と言っている				

20

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務 関係機関との連携

「サービス担当者会議(サービス利用計画作成会議)」 への参加

- ・ 相談支援専門員と連携し、支援チームによるネットワーク構築に寄与
- ・ 専門的な見地から意見を述べてアセスメントを深める

⇒「サービス等利用計画」の作成に協力するとともに
それを踏まえて「個別支援計画」を作成することで、
地域や外部につながる支援になっていく



つまり、
顔の見える関係の“顔”になるってことですね！

21

サービス担当者会議に参加する際のポイント

1. 本人の意向について、本人の言葉により確認する。
2. サービス利用に至る経過を、相談支援専門員の説明により確認する。
3. 家族の意向について、家族の言葉により確認する。
4. 相談支援専門員によるアセスメント内容やニーズ整理について不明な点を確認したり、意見を述べる。
5. サービス等利用計画案に示されている支援の方向性や必要な支援内容の全体像について確認する。
6. 自らの事業所に求められていることについて確認するとともに、対応可能なことと、現状では難しいことなどについて意見を述べる。
7. 今後のスケジュールについて確認する。

※準備をした質問や意見を必ずしも実行する必要はありません。本人や家族の状況、会議の進行状況に応じて判断が必要です。

22

22

グループワーク活性化のためのグランドルール

- ◆グループメンバーの一人ひとりが、自身の考えを積極的に発言しましょう。
- ◆発言は短く、簡潔に。(一回の発言は1～2分)
- ◆他のメンバーの話に耳を傾けましょう。(うなずき等反応を)
- ◆他のメンバーの意見を否定せず、受け止めましょう。
(人の意見を遮らない)
- ◆アイデアの共通点を見つけながらつなぎ合わせましょう。
- ◆ホワイトボード等を活用して議論を目で見えるようにしましょう。
- ◆テーマに意識を集中して話し合しましょう。

23

23

演習1(個別支援計画の作成)

利用者概要の把握とサービス担当者会議への参加準備

サービスの理解と流れの確認 10分

それぞれのサービスについて
各班ファシリテーターより説明
「事業所の概要と1日の流れ」を確認
サービス等利用計画案・利用体験の記録を確認
この後のグループワークの目的、流れを理解

24

サービス担当者会議 事前準備シート(例)	
確認が必要な事項(誰に何を確認する?)	意見を述べる事項(誰に何を述べる?)
(例) 本人に・・・ ○希望等についてより具体的なことがらを確認する 相談支援専門員に・・・ ○アセスメントについて根拠を確認する 他のサービス事業者 to ・・・ ○連携の具体的な方法について確認する	(例) 本人に・・・ ○本人に気をつけてもらいたいことなどを述べる 相談支援専門員に・・・ ○サービス等利用計画案に示されている各項目について意見を述べる 他のサービス事業者 to ・・・ ○本人の様子など注意を払ってほしいことや、具体的に支援に盛り込んでほしいことがらについて述べる

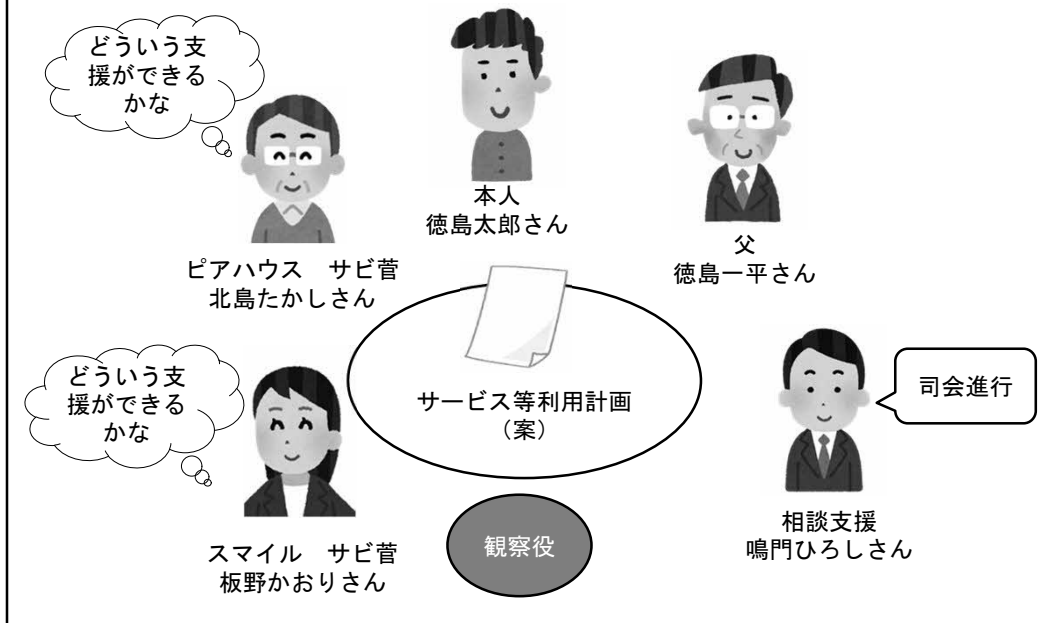
- ・各班、司会はA、記録はB
- ・グループで一つの事前準備シートを完成させて下さい。
(ホワイトボードに記入)

それぞれの役になって、
模擬サービス担当者会議を行います

- ・参加者全員が、感情の解放をします。
 - ・うまく演ずる必要はありません。
- 大切なのはいかに自分なりに自発性を発揮して演ずるか。



模擬サービス担当者会議



29

演習1(個別支援計画の作成)
サービス担当者会議体験

ロールプレいの準備 5分

- ・ 配役は記号により指定します
- ・ 役柄設定は一覧をファシリより渡します
- ・ 配役名の三角プレートを置いて下さい

※相談支援専門員役には会議進行例を
渡しますので参考に進行をお願いします
※観察役は資料の観察メモを使って下さい

30

演習 1 ロールプレイの配役

番号	配役	配役名
A	就労継続支援B型 サービス管理責任者	板野かおり
B	グループホーム サービス管理責任者	北島たかし
C	本人	徳島太郎
D	父親	徳島一平
E	相談支援専門員	鳴門ひろし
F	観察者	5人班はなし

31

演習1(個別支援計画の作成)
サービス担当者会議体験

ロールプレイ (サービス担当者会議) 10分

相談支援専門員役が進行して下さい

- ・話をまとめる必要はありません
- ・全員から意見を聞いて、会話の受け渡しをして下さい

※進行例をそのまま演じるのは避けて下さい
観察役は気づいたこと等をメモして下さい

32

各班で振り返り 10分

- ・記録はC
 - ・観察者役Fが司会となって、グループで共有して下さい(5人班はA)
- ※各班ファシリはホワイトボードで
見える化をして下さい

33

全体振り返り 5分

全体講師による振り返り説明

34

役割を演じて体験したこと考えたことを
全員が言葉にして分かち合う

【例えば】

- ・ ○○役として、自分自身が感じたこと
- ・ ○○役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったところ
- ・ ○○役として、△△役の言動に抱いた感情……等

35

休憩 10分

36

②個別支援計画作成にあたり本人との面談

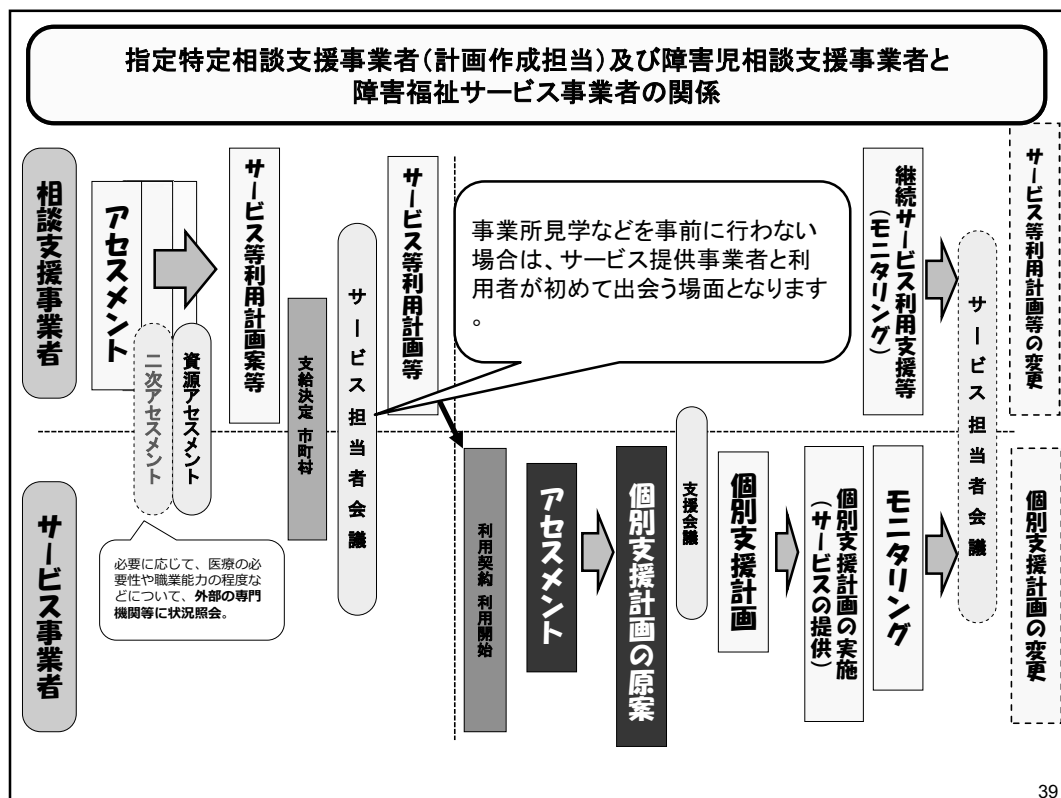
サービス等利用計画から 個別支援計画へ

37

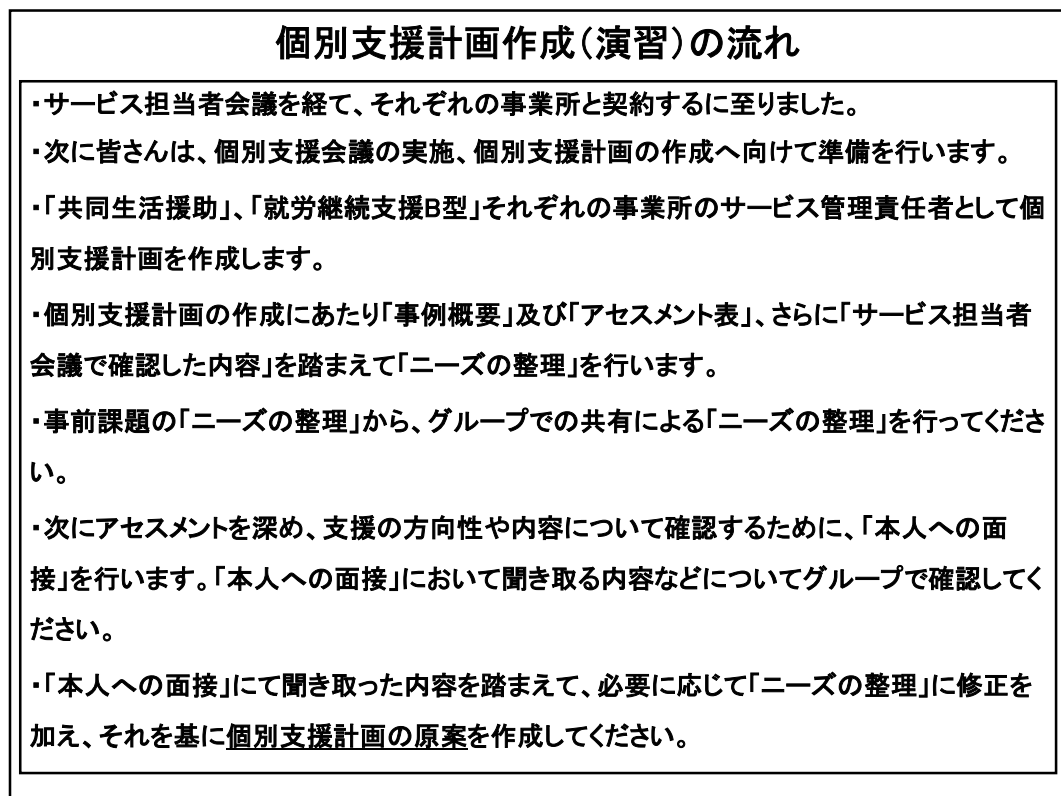
プロセスの確認



38



39



40

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務 支援プロセスの管理



● 進行管理

- ・ 支援計画と時間軸はセットで提供
- ・ 時間軸の妥当性のチェックとタイムキーパー役
- ・ ゴール設定(長期目標と短期目標)の妥当性のチェック



- 個別支援会議の開催
- 支援課題の整理と大方針の設定
- 個別支援計画の作成(←最も重要！！)
- ・ サービス管理責任者には最終的な責任がある。署名と押印で責任の明確化を！

⇒個別支援の質を担保する役割

41

ニーズの整理表				
利用者名 _____ 班 _____ さん				
No	サービス等利用計画で整理された解決すべき課題(本人のニーズ)	初期状態の評価(利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること・推測できること(事例の強み・可能性)	願いや希望を満たすための具体的な到達目標
	サービス等利用計画は、サービス担当者会議にサビ管も参加して決めたものである。 本人のニーズを全体的に把握したうえで、事業所で何ができるかを考える。その逆にならないように！			

42

ニーズの整理表記入のポイント

ニーズの整理表には
それぞれの項目に何を書くのか



ニーズの整理表

グループ

利用者名 徳島 太郎 さん

No	サービス等利用計画で整理された 解決すべき課題（本人のニーズ）	初期状態の評価 （利用者の状況・環境の状況）	支援者の気になること・推測で きること（事例の強み・可能性）	願いや希望を満たすための具体的な 到達目標
	本人が訴えたこと、希望したことを書く。 必要に応じて家族のニーズ・訴えも書く。 基本的には、サービス等利用計画の「解決すべき課題」をそのまま記入する。 サービス等利用計画や収集した本人の状況についてこれまでの記録から意向等ニーズに関する部分を拾っていく作業。	左記の解決すべき課題に対して、本人や取り巻く環境の状態はどうであったかを、記録の文章から拾っていく作業。 実際はどうであるのか、観察されたこと、確かめられたこと等、事実を書く。	左記の欄の内容に対して、その原因や理由を推測していく。 支援者として気になっていることも書く。 不安や心配なことより、こうしてみたら本人は喜ぶだろうかといった、ポジティブな推測も書く。 弱みを強みに考えるリフレーミングの意識をもつ。	左記の気になること・推測できることをもとに、どんなことが課題となってくるかを記入。 左記の欄に「こんなこともできるのではないか」「こう考えると、本人の意欲も増すのではないか」といった視点での記載があれば、「そのためには？」と考えてみる。

43

サービス等利用計画とニーズ整理票の関係

サービス等利用計画書(書式例)

利用者氏名	障害支援区分	相談支援事業所名
障害種別サービス利用計画番号		計画作成日
計画開始日	計画終了日(開始年月)	利用計画更新日
利用計画がその家族の生活に対する期待(希望)であること		
総合的な課題の方針		
長期目標		
短期目標		
優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標
	達成時期	福祉サービス等
		種別・内容(量・頻度・時間)
		課題解決のための本人の役割
		評価時期
		その他留意事項

07 ニーズの整理表

グループ

利用者名

さん

No	サービス等利用計画で整理された解決すべき課題（本人のニーズ）	初期状態の評価（利用者の状況・環境の状況）	支援者の気になること・推測で きること（事例の強み・可能性）	願いや希望を満たすための具体的な 到達目標
1				
2				
3				
4				

44

ニーズ整理の記入についての工夫

- アセスメントでは、できることとできないことをチェックしているうちに、本人の全体像がぼやけてしまうことがある。⇒アセスメントを100字程度で要約してみる。
- 本人の意向等のニーズを、一つひとつ整理しながらも、支援課題を全体的に整理する。⇒全体像の把握のために、ニーズ整理表のニーズごとの横線を省いた。
- 本人の能力、家族、インフォーマルな支援等の状況等は、利用者の状況、環境の状況に整理する。
- 支援者の気になることや推測できることには、ご本人の強さ、可能性、揺れ具合も含めた見立てとして整理する。
- 支援者の見立てのうえで、ご本人の希望に即した支援を行うためには、もう一度、本人の全体像を確認する。⇒「〇〇さんって、どんな人」ということを、100字程度でまとめしてみる(箇条書きでも可)。
- 本人の全体像をふまえて、ご本人の希望に即した支援を行うためにニーズを整理する。
- 本人の整理されたニーズから目標を導き出し、それが、なぜご本人にとって大切なのかを明らかにする。

45

(参考) 100文字アセスメント例

①ぼくは入院して10年目。日常家事はうまくできないけど、退所後はお金を自由に使ったり、人を気にせず自分のペースで生活したいので、アパートで一人暮らししたい。でも保証人もいないし・・・それにどんな一人暮らしになるのかなあ? (109字、精神障害、統合失調症のある人)

②私は病院や施設に入らずに、自宅で介助者のサポートを受けながら生活していきたい。でもこのままだと夫の体調やお金の負担も心配・・・だれか私を介助してくれる人が来てくれないかしら・・・。(89字、身体障害、肢体不自由のある人)

③ぼくは今の家で暮らしながら、そのうち作業所でなくちゃんと働きたい。だけど話の理解も作業も遅いし、皆にはついていけずにちょっと不安もある。また体調不良の母親もいるし、何かとうるさい兄もいてどうしていいか困っているんだ。(109字、知的障害のある人)

神奈川県相談支援従事者初任者研修 駒澤大学佐藤光正先生の資料より引用

46

ニーズ整理(グループ共有) 40分

- ・司会D、記録E
- ・事前課題「ニーズの整理表」をもとに、
グループで一つの「ニーズの整理表」を
完成して下さい。
(ホワイトボード等に記入)

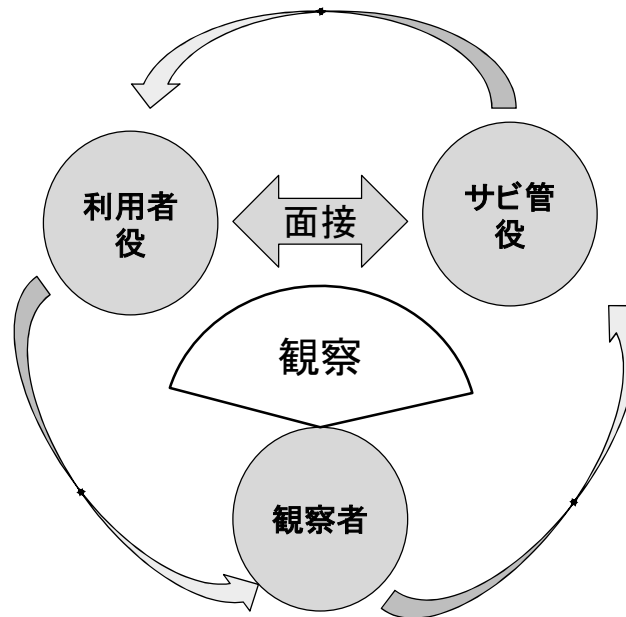
47

ロールプレイ(本人との面談)

ニーズの整理表をもとに、
本人と面談します。

48

利用者面接ロールプレイの方法



49

49

利用者への面接のポイント

- ・ 面接の目的について利用者に分かりやすく説明する。
- ・ 本人の具体的な希望や不安について聞き取る。(傾聴)
- ・ 本人に支援例などを伝えて、具体的なイメージ化を促す。

「傾聴」のポイント

すべし	すべからず
発言者に身体を向け、前傾姿勢 目を合わせる 柔軟な表情をする うなづく、あいづちを打つ 相手の発言を復唱する 相手の発言を要約して確認する 内容に応じて反応を返す	ふんぞり返り 目をつぶって、難しい顔 キラキラしてない視線 ピクリとも動かない ながら作業 延々、サービス管理責任者等が発言・解説 のっけから疑問・批判

平成29年度相談支援従事者指導者養成研修「テーマ別演習」受講のススめ 岡部正文氏 資料より引用 一部改編

50

本人との面談の準備

本人との面談ロールプレイについて、
各班ファシリテーターが説明
※グループで作成した
「ニーズの整理表」をもとに面談する

51

ロールプレイ(本人との面談) 10分(5分×2回)

各班で3人1組(A・B・C)、(D・E・F)になり、本人への面談をロールプレイで行います
(本人・サビ管・観察役)
※サビ管役となった時は「ニーズの整理表」を意識して話して下さい
1回5分×2回(2回目は役を交代する)

52

**各班で振り返り
10分**

**各役の感想・観察役の気づき等
※各班ファシリが進行して下さい**

53

**昼休憩
(1時間)**

**おいしいごはんを食べて下さい
時間までに席について下さい**

54

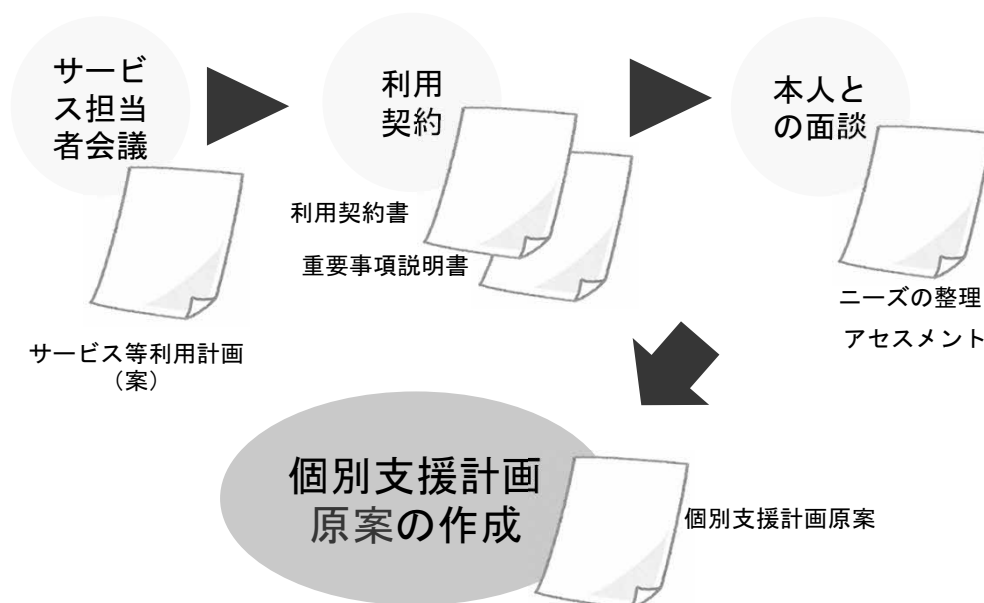
③個別支援計画の作成・発表

個別支援計画の作成

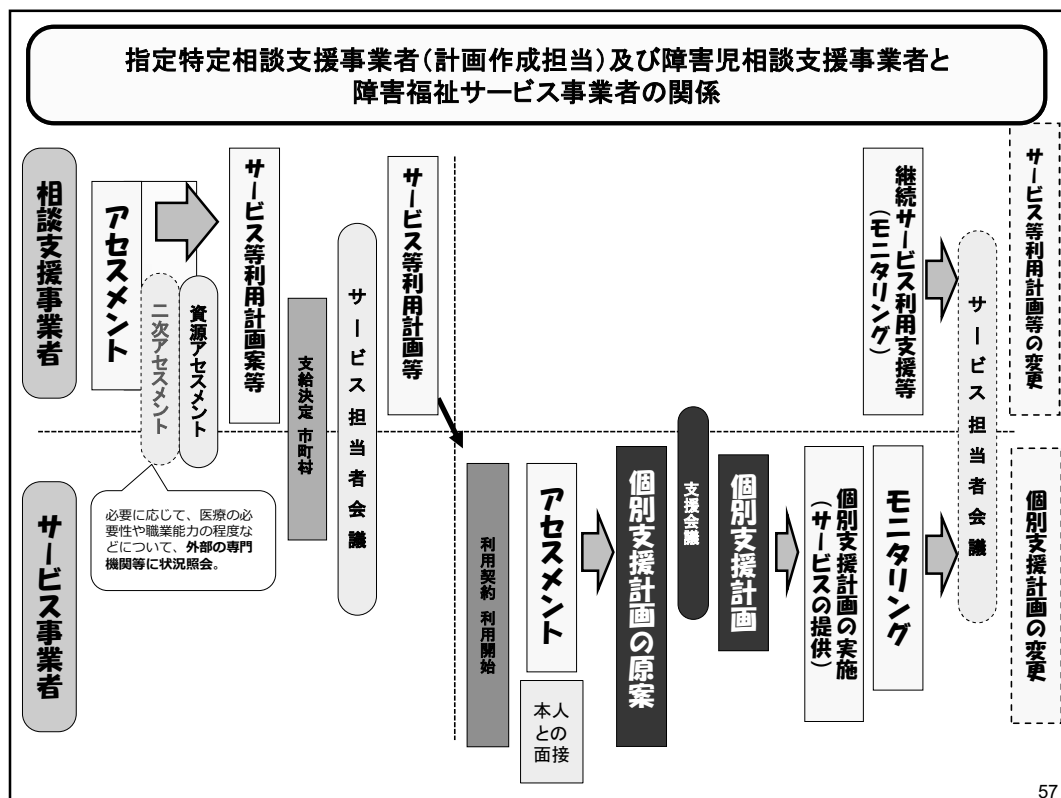
【全体講師交代】
ポイントを説明します

55

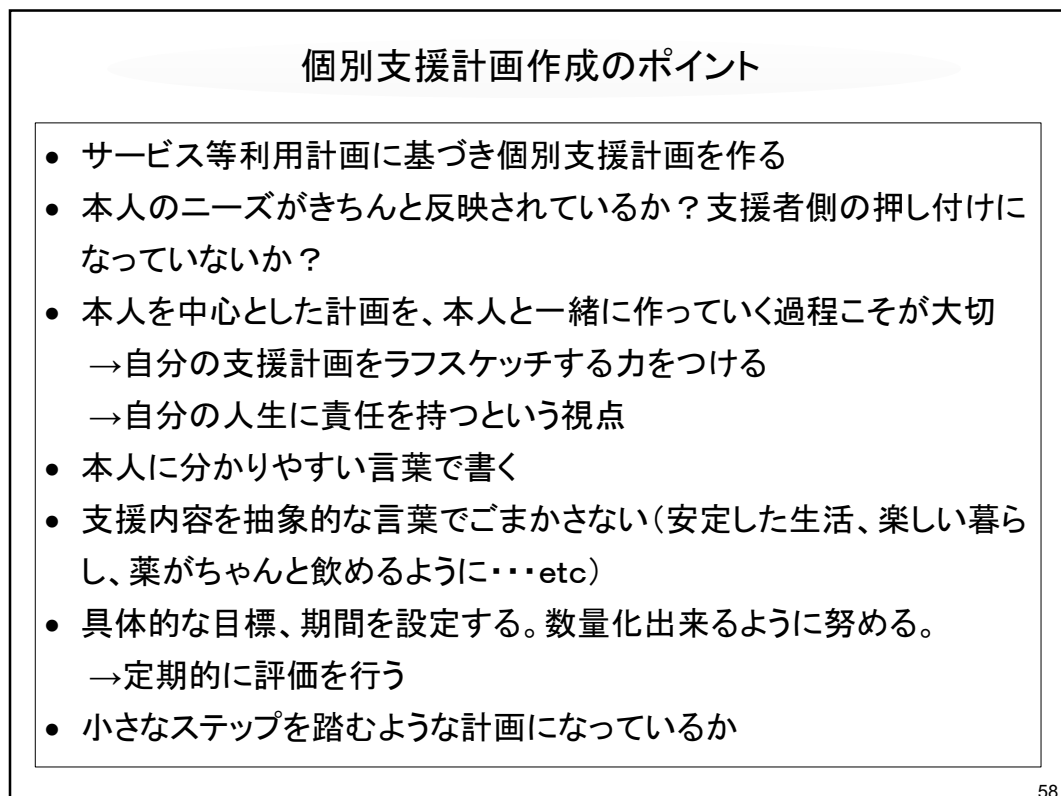
プロセスの確認



56



57



58

個別支援計画原案の作成 (グループワーク) 60分

- ・司会C、記録D
(ホワイトボードに記入して下さい)

61

個別支援計画原案発表の方法

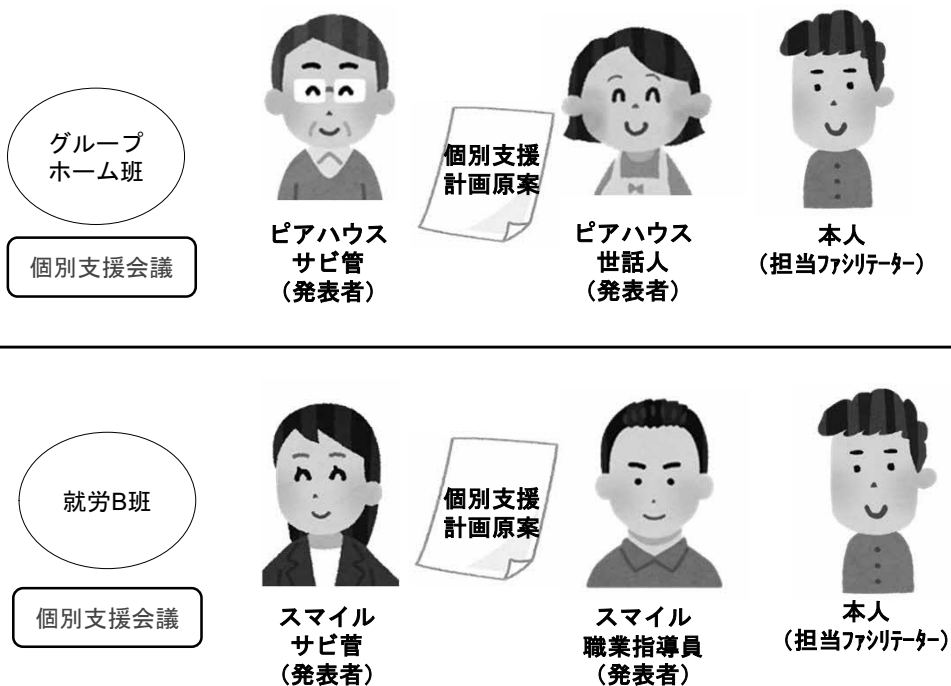
利用者本人が参加する個別支援会議
の様子をロールプレイで実演します

参加者 利用者本人・サビ管
世話人または職業指導員

サビ管役が司会となり計画案を説明しながら、
それぞれに意見を求め、本計画に近づける
※利用者本人役を発表班ファシリが担当

62

個別支援計画案の個別支援会議（ロールプレイ）



63

演習1 (個別支援計画の作成) 個別支援計画の作成・発表

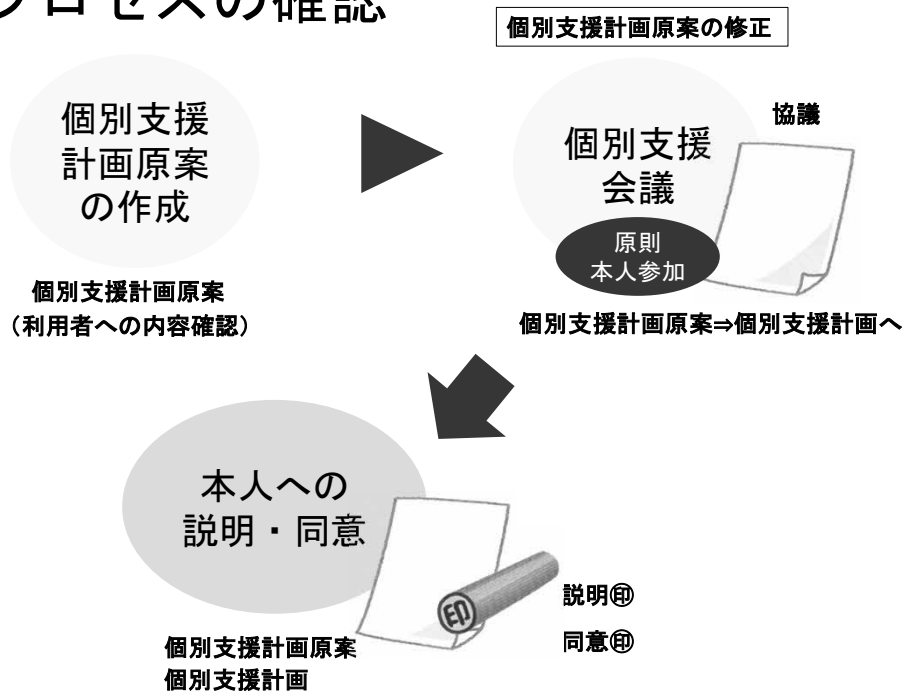
個別支援計画原案の発表 10分×2班

全体講師が発表班を指名します
会場前方と後方で各1班ずつの発表

利用者本人が参加する個別支援会議の
様子をロールプレイで実演します

64

プロセスの確認



65

演習1(個別支援計画の作成)
個別支援計画の作成・発表

各班で振り返り 10分

- ・ 各班ファシリテーターが進行
- ・ 他の班の計画や個別支援計画例を見て感じたこと、気づいたこと等
- ・ グループホームと就労Bの計画を同時に実施することは可能か等

66

休憩 10分

**会場内の他の班の計画原案を
自由閲覧する**

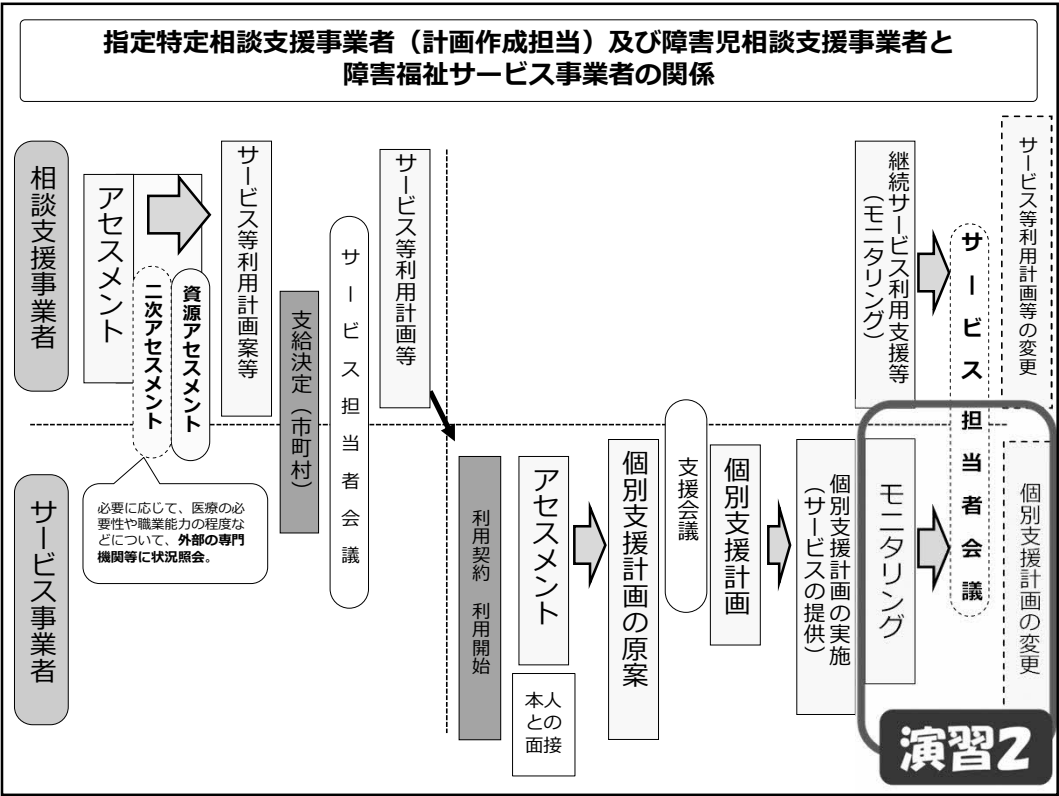
67

演習 2
(個別支援計画の実施状況の把握及び記録方法)

演習 2 スケジュール

- ①モニタリング（サービス担当者会議）
追加情報をもとに
ロールプレイ（15分×2回）**
- ②個別支援計画修正案の作成
（グループワーク）**

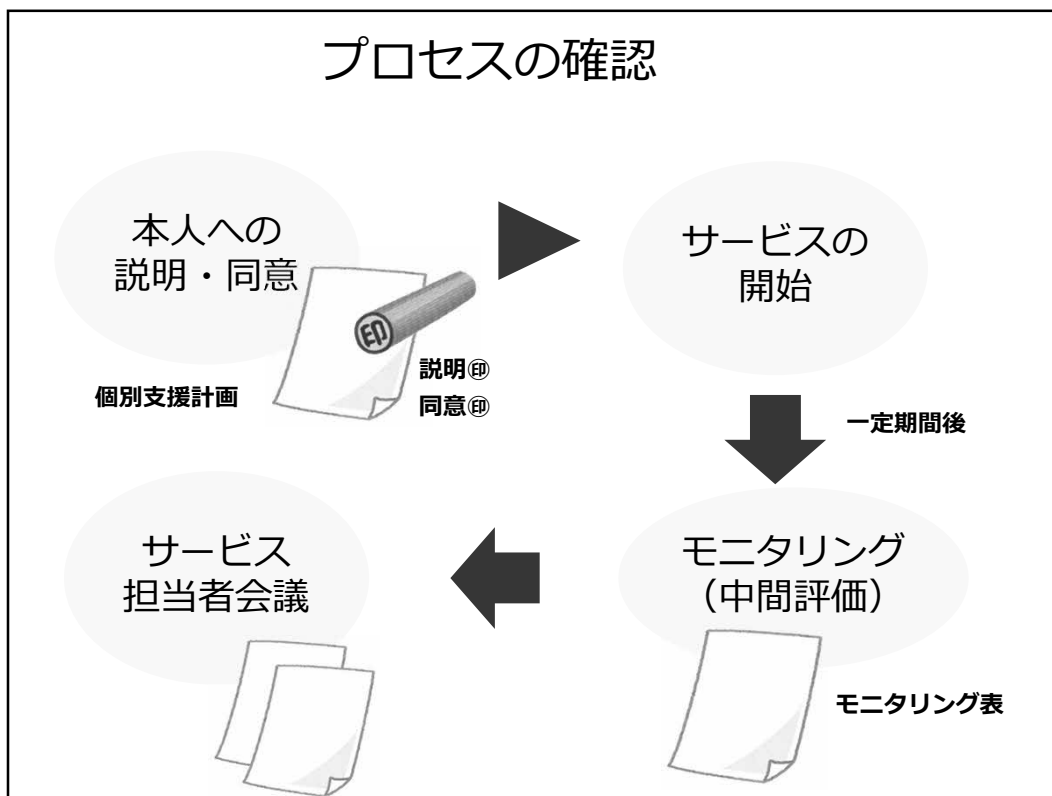
68



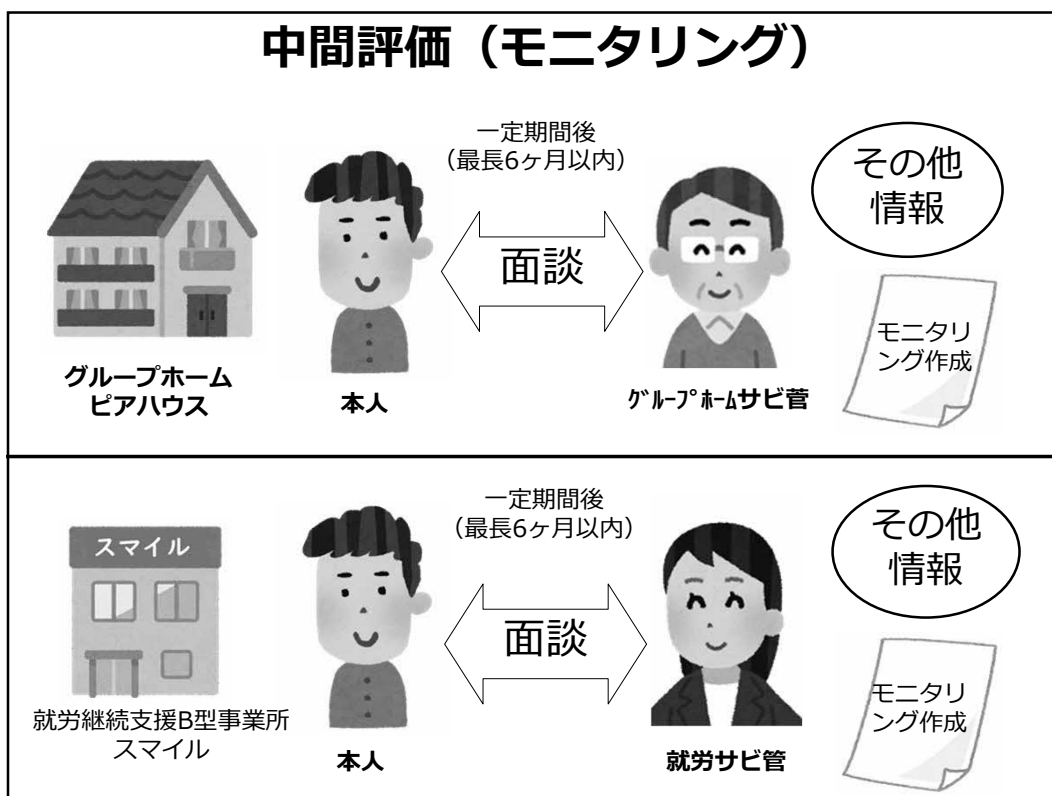
69

(記入様式) 個別支援計画の中間評価									
								利用者名	
到達目標		達成状況の評価			現状・達成されない原因の分析等			今後の対応(支援内容・方法の変更等)	
1	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成					
2	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成					
3	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成					
4	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成					

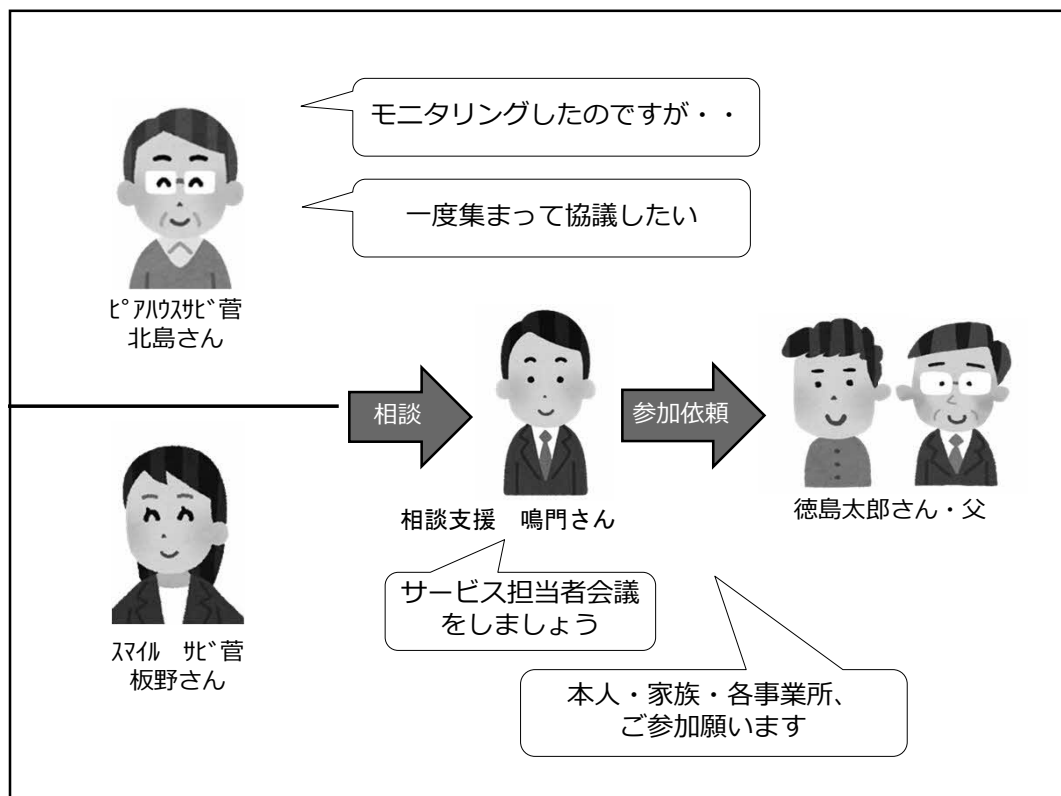
70



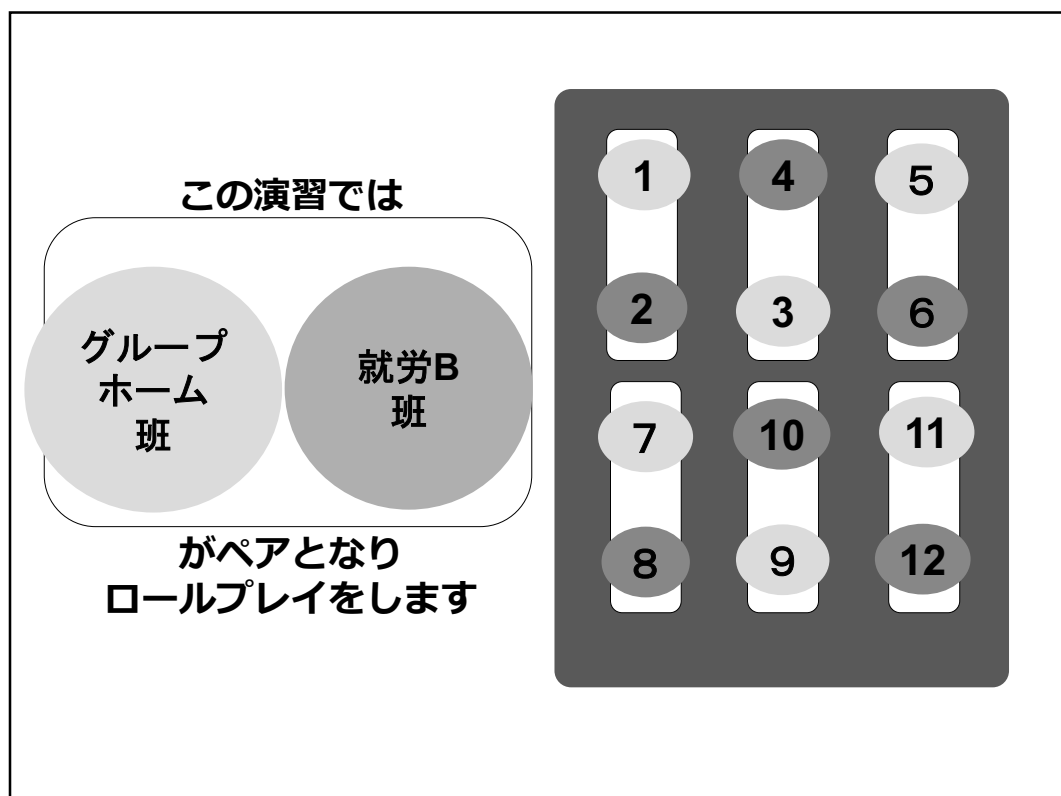
71



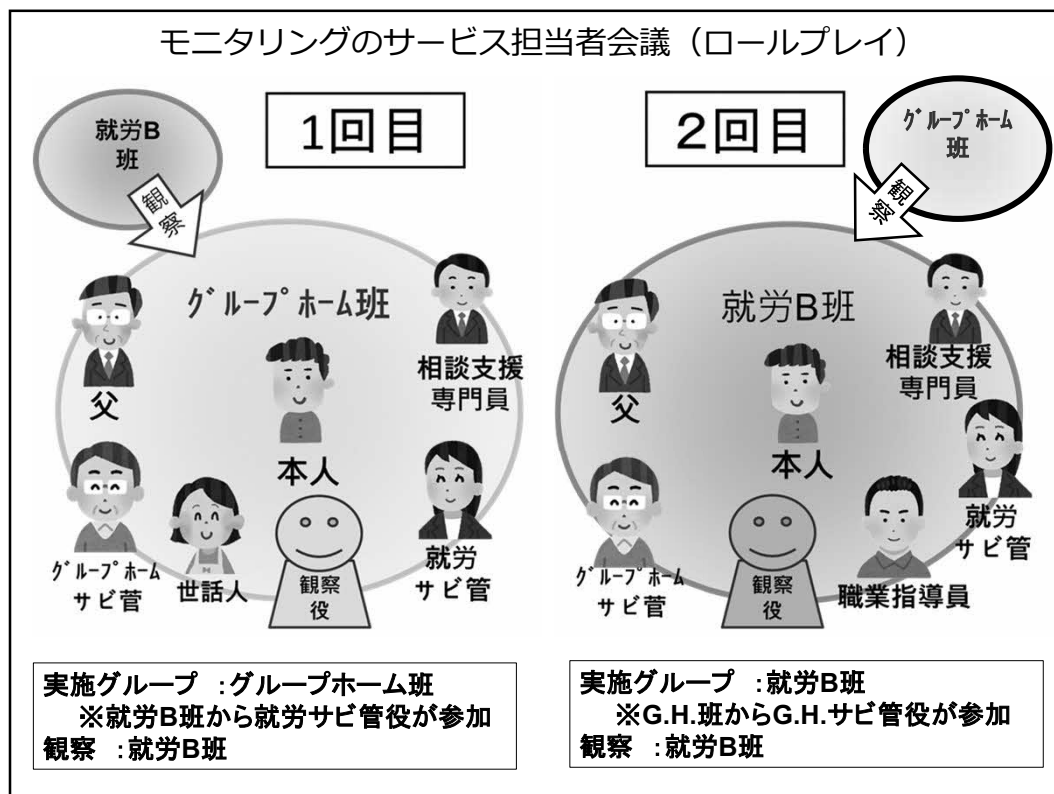
72



73



74



75

演習2（個別支援計画の実施状況の把握及び記録方法）

①モニタリング（サービス担当者会議）

追加情報

※個別支援計画の中間評価を説明
各自で追加情報の読み込み（5分）

76

サービス担当者会議参加準備

- ・ 役割分担表にて各自配役を確認して下さい
- ・ 配役名の三角札を準備して下さい
- ・ 配布する役柄設定にもとづき、
役作りをして下さい (アドリブOK)

77

グループホーム班ロールプレイの配役

	配役	配役名
A	本人	徳島太郎
B	観察者	(メモとる)
C	父親	徳島一平
D	相談支援専門員	鳴門ひろし
E	グループホームサビ管	北島たかし
F	世話人(5人班はなし)	三好よしこ
就労班 D	就労Bサビ管	板野かおり

78

就労B班ロールプレイの配役

	配役	配役名
A	父親	徳島一平
B	本人	徳島太郎
C	相談支援専門員	鳴門ひろし
D	就労Bサビ管	板野かおり
E	観察者	(メモをとる)
F	職業指導員 (5人班はなし)	吉野まさお
グループホーム E	グループホームサビ管	北島たかし

79

自分の役の設定確認
役作り

ロールプレイ
15分

振り返り
10分

80

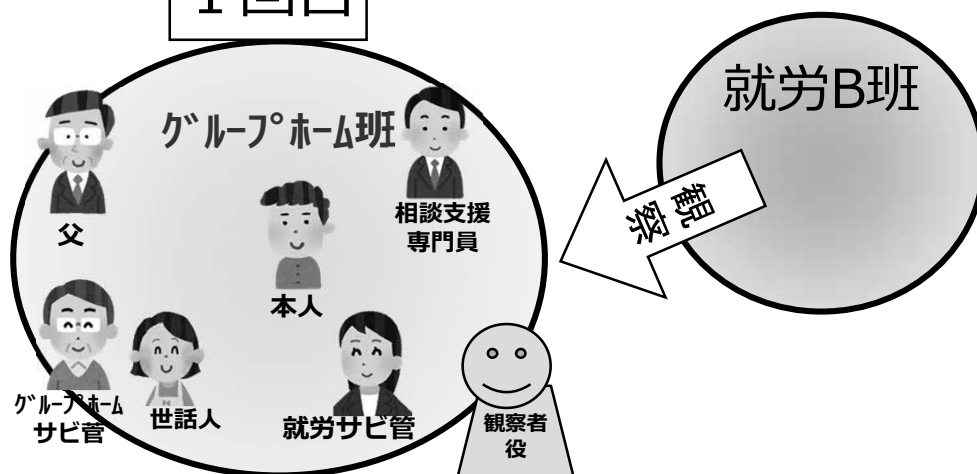
グループホーム班 と 就労Bサビ管役 役柄設定・役作り 10分

役柄設定は各班のファシリが
個別に役柄設定を渡します
(自分なりに役作りをして下さい)

81

モニタリングに係るサービス担当者会議（演習）の実施方法

1回目



実施グループ：グループホーム班
※就労班から就労サビ管役が参加
観察：就労B班

82

グループホーム班 ロールプレイ (サービス担当者会議) 15分

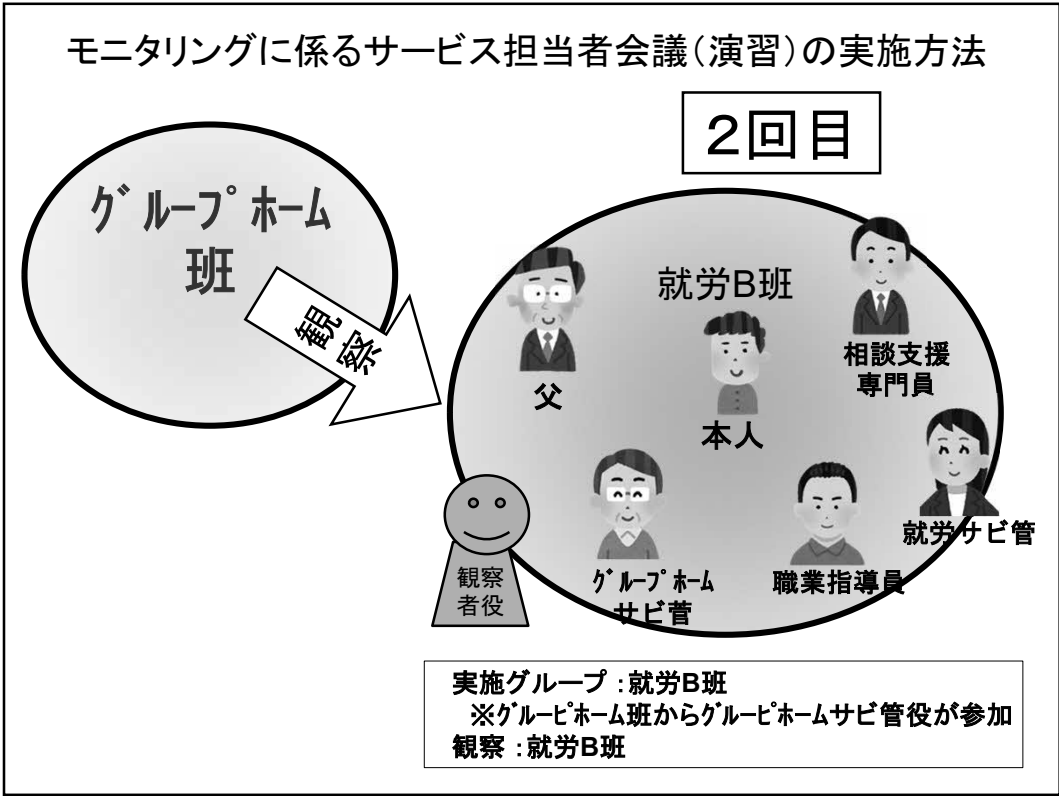
- ・ 相談支援専門員役が司会進行
- ・ 就労B班は観察
- ・ 観察者役はメモをとる

83

振り返り (グループワーク) 10分

- ・ 観察者役が司会進行
- ・ それぞれの役の設定を説明
- ・ 参加者全員で感想を共有
 - ※時間があれば観察者(就労B班)からも感想
- ・ 各班ファシリがコメント

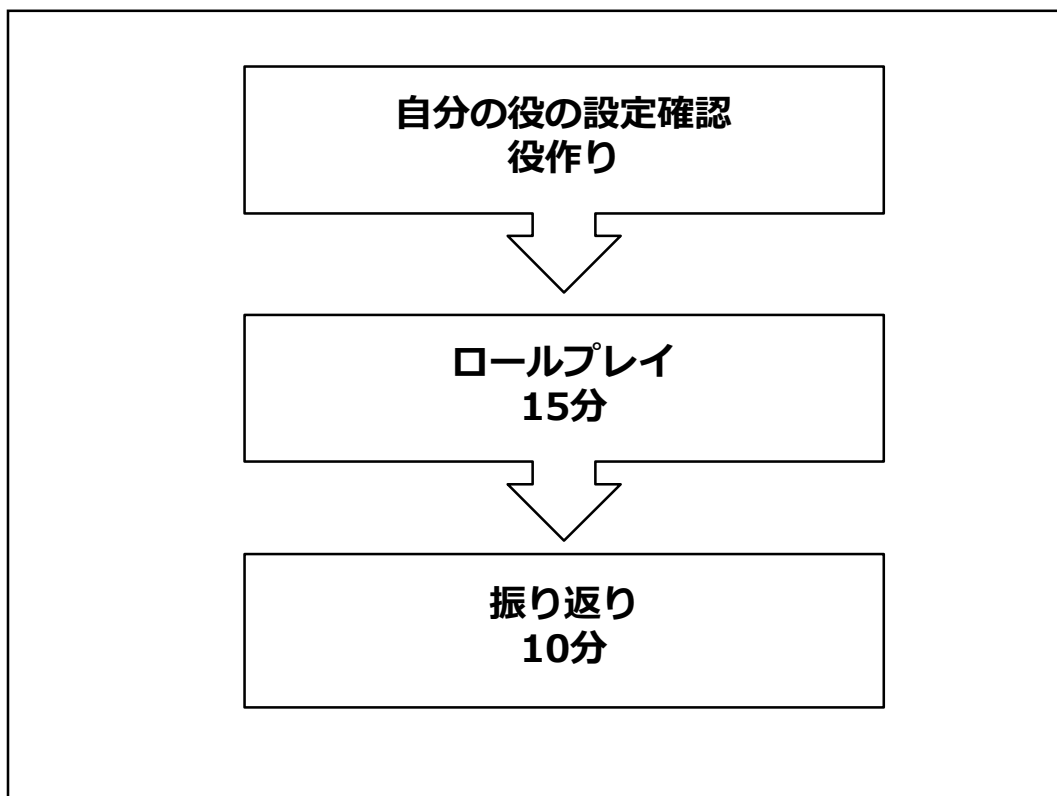
84



85

就労B班ロールプレイの配役		
	配役	配役名
A	父親	徳島一平
B	本人	徳島太郎
C	相談支援専門員	鳴門ひろし
D	就労Bサビ管	板野かおり
E	観察者	(メモをとる)
F	職業指導員 (5人班はなし)	吉野まさお
グループホーム E	グループホームサビ管	北島たかし

86



87

**就労B班 と グループホームサビ管役
役柄設定・役作り
10分**

**役柄設定は各班のファシリが
個別に役柄設定を渡します
（自分なりに役作りをして下さい）**

※ 1回目とは異なる設定もあります

88

**就労継続支援B班
ロールプレイ
(サービス担当者会議)
15分**

- ・ 相談支援専門員が司会進行
- ・ グループホーム班は観察

89

**振り返り
(グループワーク)
10分**

- ・ 観察者役が司会進行
- ・ それぞれの役の設定を説明
- ・ 参加者全員で感想を共有
 - ※時間があれば観察者（グループホーム班）からも感想
- ・ 各班ファシリがコメント

90

休憩 10分

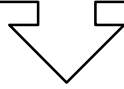
91

支援計画作成にあたっての留意点
(令和6年度報酬改定からの変更点を基に)

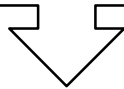
- ◎ **支援計画に必須の記載内容の確認**
- ◎ **相談支援事業所への交付**

92

**計画修正案作成グループワーク
60分**



**計画修正案の発表
5分×2回**



**研修の振り返り・まとめ
(班ごと)**

93

演習2(個別支援計画の実施状況の把握及び記録方法)

**個別支援計画修正案の作成
グループワーク
60分**

・ 司会C、記録F（5人班はB）

**※ホワイトボードに
完成させて下さい**

94

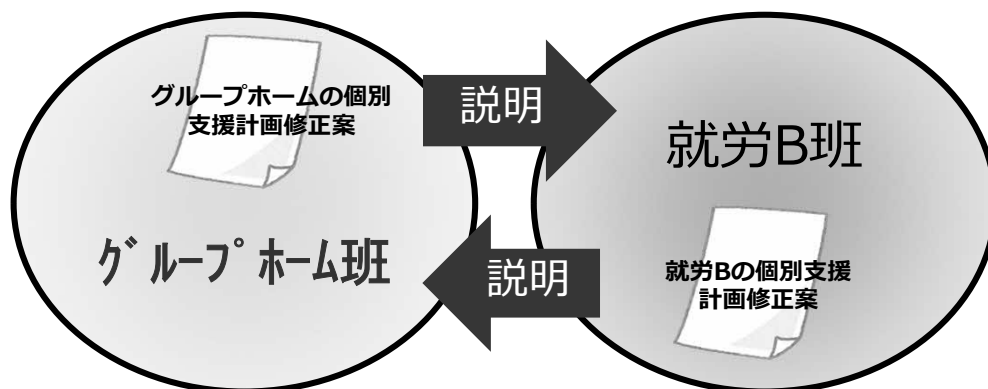
②個別支援計画修正案の作成

計画修正案の発表 各5分

- ・発表者はA
- ・ロールプレイでペアになったグループホーム班と就労B班で集まり、それぞれ修正した計画案を説明

95

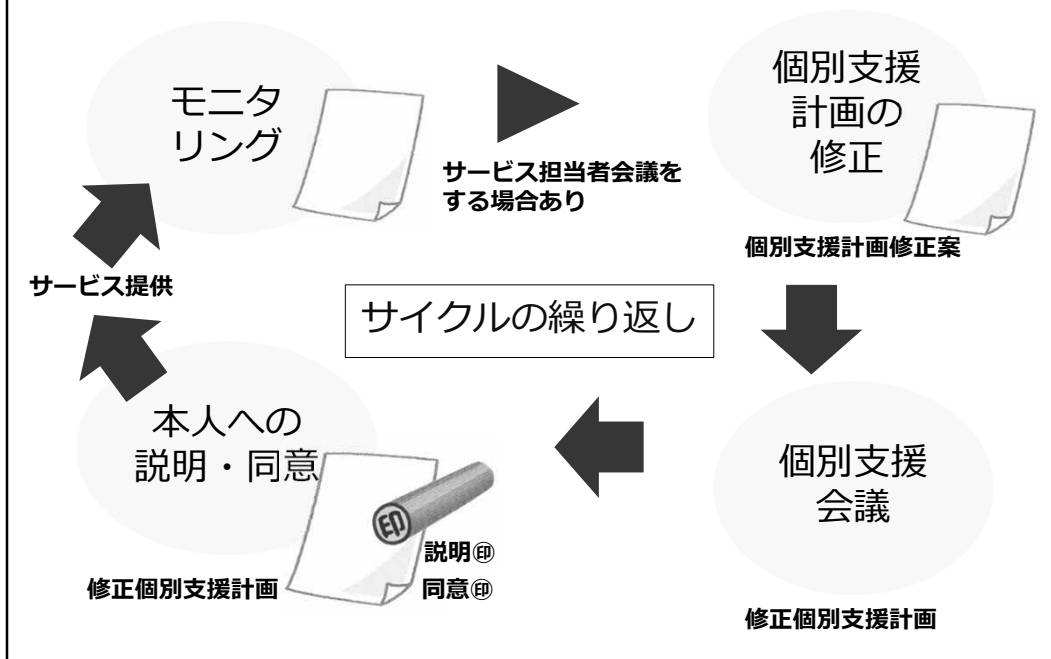
個別支援計画修正案の発表



ペアとなったグループホーム班と就労B班が集まり、それぞれ修正した個別支援計画修正案を発表

96

プロセスの確認



97

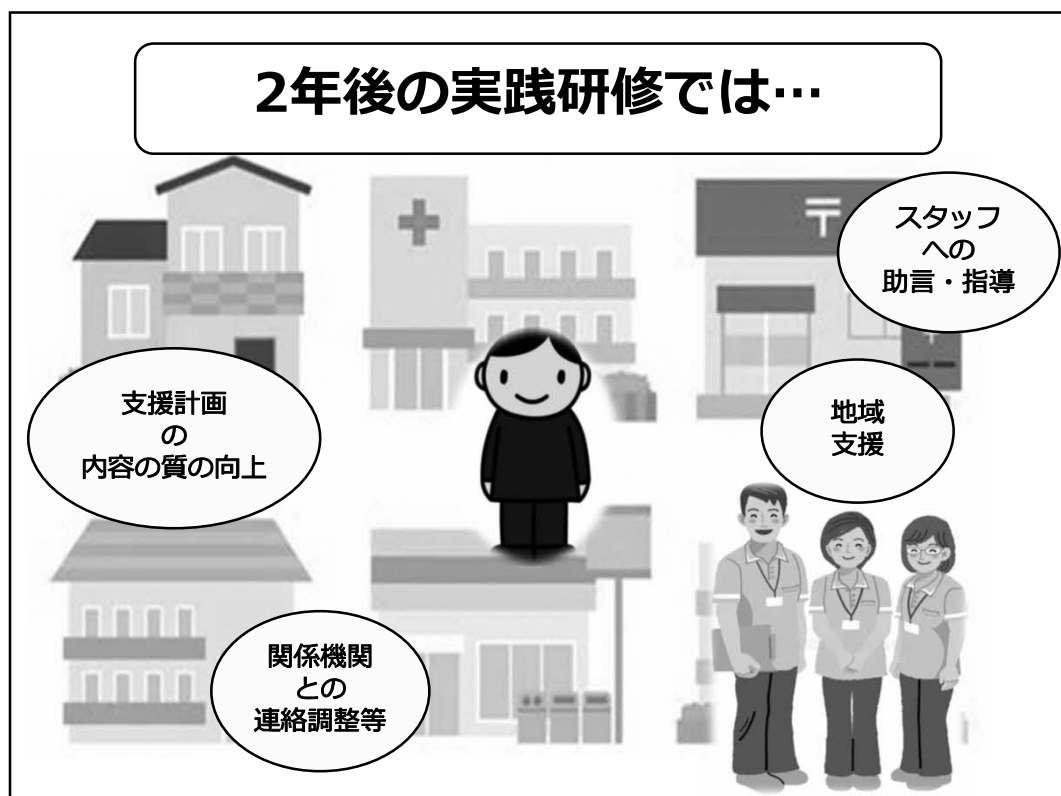
研修の振り返り まとめ

- ・ 各班で研修全体の感想共有
- ・ 各班ファシリよりコメント

98



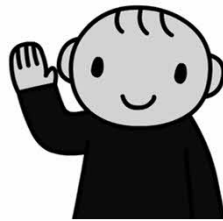
99



100

**終了です
長時間お疲れ様でした**

**次回実践研修で
お会いしましょう！**



徳島県サービス管理責任者等基礎研修
事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です

徳島 太郎さん

記入者 記入者 支援センターひまわり 相談支援専門員 鳴門 ひろしさん

事例タイトル	父親と弟との暮らしが困難になり、グループホームと就 B を利用しながら地域で生活することを希望している事例
年齢・性別・ 家族構成・家族 状況・現在の居 住歴	【ご本人】 徳島 太郎（とくしま たろう）22歳・男性 A 市で生まれて以来家族と生活してきた。 【家族構成】 現在の実家は父親と弟の3人暮らし 【実父】 徳島 一平（とくしま いっぺい）58歳 無職 もともとは大工。以前はとても面倒見が良かった。現在は交通事故で右半身に麻痺が残り無職となっている。何とか自分のことはこなせるが、子どもたちの世話をすることは身体的にも経済的にも困難になっている。 太郎さんの施設入所を考えていたが、太郎さんの「自立したい」という気持ちを聞いて、福祉サービスを利用して自立してほしいと思っている。 【実母】 ご本人が小学校1年生の時他界。 【実弟】 徳島 次郎（とくしま じろう）18歳 高校3年生 現在普通高校に通学。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。
手帳 障害支援区分	療育手帳 障害の程度 B2 軽度の知的障害 障害支援区分：区分3
経済状況	家族：生活保護受給により、生活 本人：障害基礎年金を申請中 生活保護受給
生育歴・学齢期 の状況等	【誕生～幼少期】 ・A市で2人兄弟の長男として出生 ・初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。 ・保育園では、お絵描きや制作活動は楽しんで参加できていたが、絵本の読み聞かせは時折、立ち歩くことがあった 【学齢期（小学校）】 ・小学校の1～2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立てて教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴って

	しまうことがあった。尚、小学校1年生の時に、母親が他界。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。 ・小学校3年生から情緒支援学級に移る。 ・小学校6年生の秋に、他の生徒との学力の差、学習環境に馴染めないこと等から、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。その際、児童相談所での療育の判定を受け、軽度の知的障害の判定を受けた。 【学齢期（中学部）】 ・中学はA市内にある特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。 ・太鼓部の顧問は、太郎さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。 ・部活動以外では、昆虫が大好きで、図鑑を見たりしている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。同じクラスに昆虫好きの友達がいた。 ・学校の科目では、父親が大工だったこともあり、太郎さんも木工に興味をもって犬小屋をつくった。 ・好きなこと（木工や昆虫図鑑を見ること）は集中して取り組むことができるが、興味が無いと席に座っていることができない状況があった。 【学齢期（高等部）】 ・高等部進学後も高等部の太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。 ・友達も数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかというと受け身的な性格であり、話かけられるのを待つ方だった。 ・困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする傾向があった。 【特別支援学校高等部の元担任の主観】 ①同じような内容のことについても、理解できているときとそうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。 ②自分でできないときになかなかヘルプコールが出せない。 ③ 教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。 ④人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。 ⑤なかなか伝えたことが身につかないときに、繰り返していねいに声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。
--	--

	【支援目標を達成していく上で効果が認められたこと】 ①作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6 工程の内容でも対応できることは多かった。 ②やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。 【卒業後】 ・放課後等デイサービスを終了 ・特別支援学校卒業後は、製造部品を作る工場に就職
相談経過の要約	・特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて太郎さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1 年後に上司が変わり、その上司が他の職員の対応に追われて、太郎さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後に、太郎さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。 ・退職後は「誰とも会いたくない」と話して、求職活動もなかなかできず自宅でのひきこもり状態の生活になっていた。 ・退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中に交通事故にあい大けがをした。父親も右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなった。最初のころは貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となった。 ・それまで父親が家事などを行っていたので、父親が家事を十分にできなくなったため、家庭内は乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。 ・父親から「太郎の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、太郎さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望し、相談支援センターひまわりの利用を開始した。 ・太郎さんは、相談支援センターひまわりで相談を始めて、見学等も行いう中「相談しながらやっていきたい」「今は朝も起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。

相談支援専門員 からの特記事項	・こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。太郎さんからの質問はほとんどない。 ・太郎さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活に困窮しているので、服装には少し汚れが目立っていた。 ・相手の話を「はい、はい」と 返事をするので、分かっているように見えるが、なかなかすぐには理解できない様子。 ・自分で自立した生活というイメージがまだ持てていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、相談支援の担当者は考えている。
----------------------------	--

※太郎さんが特別支援学校中等部に入学する際に放課後等デイサービスで作成したものです

利用児氏名：徳島 太郎

個別支援計画書

作成年月日：○年 ○月 ○日

利用児及び家族の生活に対する意向	・友達と楽しく過ごしたい。 ・昆虫のことをもっと知りたい。 観察したい。 ・僕のことをわかってほしい。(本人) ・新しい環境で自分らしく過ごしてほしい。 ・自分の気持ちをうまく伝えられるようになってほしい。(保護者)			
総合的な支援の方針	太郎さんは楽しく友達と過ごしたり、タイムリーに自分の思いを伝えて分かっているという気持ちをもっており、保護者もそうした太郎さんの姿に近づいていけることを願っています。これから思春期を迎えようとしている太郎さんですが、中学は支援学校に進学することになり、過ごす環境が大きく変わること、不安や戸惑いを感じる場面も少なからずありそうです。事業所としては、太郎さんのペースで、太郎さんらしく楽しく学校生活が送れるよう関係機関と連携を図り、太郎さんご家族をサポートしていきます。また、太郎さんが安心して思いを伝えたり、話ができる環境作りや意思表示のフォローも引き続き行っていきます。			

長期目標 (内容・期間等)	他者に意思表示できることで受けとめてもらった安心感や満足感を感じられる経験の幅が広がる	支援の標準的な提供時間等 (曜日・頻度、時間)		
短期目標 (内容・期間等)	新しい環境に慣れ、事業所でも安心して過ごせる	・月～金曜日(週5日) 学 校 日： 14:00～17:00 (3時間) 延長時間 17:00～18:00 学校休業日： 10:00～15:00 (5時間) 延長時間 8:30～10:00 15:00～18:00		

○支援目標及び具体的な支援内容等

項目	支援目標 (具体的な到達目標)	支援内容	達成 時期	担当者 提供機関	留意事項 (本人の役割を含む)	優先 順位
本人 支援	場面に合った行動の調整ができる	・リラックスタイムや運動遊びで心や体がリラックスできたりエネルギーを発散する爽快感を知る。 ・必要に応じて気持ちや体の感覚について見える化したものを使い、自己調整できるようにする。	運動・感覚 認知・行動 6か月後	作業療法士 保育士	・自分でうまく気持ちや行動の調整ができる方法を太郎さんと一緒に考えていく。	3
本人 支援	興味のあることや好きな活動にじっくり集中できる	・太郎さんの興味のあるものを様々な道具や素材を使って作ってみる。 ・作成手順や素材の集め方を調べたり担当者と一緒に相談して進める。	認知・行動 6か月後	心理担当職員 保育士	・環境や一緒に過ごす友達が大きく変化することをふまえ、これまで継続してきた好きな活動に自分らしく参加できるようにしていく。	2

本人支援	事業所で安心して楽しく過ごせる	・学校でのことや感じたことを話せる担当者とりラックスして話せる空間をもうける。 ・休憩時間や単独活動も取り入れながら、友達との運動遊びやゲームを楽しむ。	健康・生活 人間関係・ 社会性	6か月後	保育士 児童指導員 保護者	・思春期や第二次性徴を迎えることもふまえて、太郎さんにとって安心して話や相談ができる環境を作る。	1
本人支援	自分の思いや考えを他者に表現できる場面が広がる	・言葉で伝えにくい時は、タブレットや手紙を使ってみる。大人に相談してみる。	言語・コミュニケーション	6か月後	心理担当職員 保育士	・太郎さんの表現しやすい伝達方法を尊重しつつ、うまく伝わるコツを教示していく。	2
本人支援	状況に応じたふりまいができる場面が広がる	・ペア及び小集団活動で友達と一緒に決めたり作戦会議をする場を通じて意思表示する経験を重ねる。 ・自分と他者の関係(役割)や気持ちをイラスト等で見える化したものを活用する。	人間関係・ 社会性	6か月後	心理担当職員 保育士	・時には太郎さんの“言いたくない”“したくない”の気持ちも尊重しながら進めていく。	3
家族支援	新しい環境での太郎さんについて共有していく	・家庭での様子や気になっていいることを送迎時や連絡帳で、また、面談の機会にお伝えください。 事業所での様子やこちらからの提案・助言についても上記機会を通じてその都度させていただきます。		6か月後	児童発達支援 管理責任者 支援担当者 保護者	・子育てサポート加算：事業所での様子を見ていただき、フイードバックや助言を行う。(2か月に1回を想定)	
移行支援	小学校から支援学校への引き継ぎとして情報共有を図る	・太郎さんの強みや必要なサポートについて共有がはかれるよう、事業所としての資料を作成したり、保護者が作成する引継ぎ資料のフォローをします。 ・必要に応じて支援学校入学前に保護者と共に学校訪問して情報共有をします。		6か月後	児童発達支援 管理責任者 支援担当者 ○小学校担任 □支援学校学年主任 保護者	・保護者の意向を確認しながら連携を図る点に留意する。	
地域支援・ 地域連携	関係機関(者)で太郎さんの新生活における支援の方針を共有する	・連携会議を定期的に開催し、情報収集、役割分担について協議する。 ・関係機関からの情報に基づき、具体的な支援の提案やポイントについての助言を行う。		6か月後	児童発達支援 管理責任者 支援担当者 □支援学校担任	・関係機関連携加算(Ⅱ)：連携の為に会議の開催を予定。(3か月に1回を想定)	

提供する支援内容について、本計画書に基づき説明しました。

児童発達支援管理責任者氏名：〇〇 〇〇

本計画書に基づき支援の説明を受け、内容に同意しました。

△年 △月 △日 保護者署名

アセスメント表

記録：相談支援センターひまわり

相談支援専門員：鳴門 ひろし

相談日時	令和 6 年 6 月 5 日 13 時～15 時
氏名等	徳島 太郎氏、22 歳 男性知的障害（軽度）障害支援区分 3（月 1 精神科受診）
望んでいる暮らし	【全体】 「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」 「困りごとは相談したい」 「3 年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」 【生活面】 「自分のことは自分でできるようになりたい」 「将来は一人で暮らしたい」が「今は朝もなかなか起きられない」し 「掃除や洗濯、調理もできない」 「一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫の話ができる友達ができたら最高」 【就労面】 「3 年後ぐらいにはまた働きたい」 「今は働くことの自信はないので力をつけたい」 「1 人でコツコツと集中できる作業が好き」 「働くときには優しい上司がいるところが良い」
心身の状況	身長 175 cm 体重 80 キロ特に問題ない。太郎さんは最近肥満体形になってきているのを気にしている。
精神面の状況	突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする感じが見られる。 見た目は大人しそう。高校時代の担任の先生は「普段は、穏やかに過ごしていた」「集中している時は、周りの声も耳に入らない」と言われていた。父親を尊敬していて世話になったと思っている。
生活の自立度	朝起きるのが苦手な生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。 家事は手先が器用なので練習すればできるようになるのではないかな。やり方や手順について確認する必要がある。
気持ちの自立度	家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、始めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなときには早めに職員に伝えられるとよい。
服薬状況	夜、寝る前の処方のみ。自分で薬の管理ができるように練習している。

経済状況	【収入面】 生活保護 【支出面】 グループホームの費用 家賃 30,000 円（家賃補助 10,000 円） 食費 20,000 円 高熱水費 15,000 円日用品費 3,000 円 生活費（おこづかい） 20,000 円 金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。
趣味	昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など
キーパーソン	父親。交通事故で右半身に麻痺があり自分のことで精一杯な様子。
家族	父方母方の祖父母について 父方の祖母は県外（遠方）にいるが、母方の祖父母は他界している。 両親と暮らしていたころは、年 1 回は家族で父方祖父母に会いに行っていた。
就労	手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。「1 人でコツコツと集中できる作業が好き。」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「3 年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」といずれしっかり働きたいという意欲はある。移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習しだいでは利用できそうである。

02 アセスメントシート

氏名 徳島 太郎

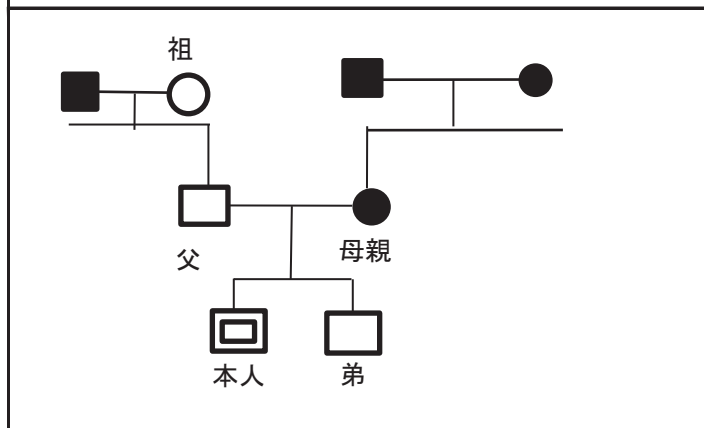
記入 相談支援専門員 鳴門 ひろし

項目		介助が いるか	程度	項目		介助が いるか	程度	
日常生活面	起居動作	起き上がり	☐ 有	衛生保持	手洗い	☐ 有		
		寝返り	☐ 有		爪切り	☐ 有		
	姿勢保持	座位	☐ 有		耳掃除	☐ 有		
		立位	☐ 有		月経	☐ 有		
	移動	屋内	☐ 有	行排泄	排尿	☐ 有		
		屋外（徒歩）	☐ 有	排便	☐ 有			
	衣類着脱	着脱行為	☐ 有	食事全般	飲食行為	☐ 有		
		服装の選択	☐ 有		食事状況	☐ 有		
	整容行為		歯磨き	☐ 有	食事の後片付け	☐ 有		
			洗顔	☐ 有	調理全般	調理	☒ 有	やったことがないので支援が必要
			整髪	☐ 有	安全確認	☒ 有	やったことがないので支援が必要	
			ひげ剃り	☐ 有	入浴全般	入浴の準備と片付け	☐ 有	
			化粧	☐ 有		入浴	☐ 有	
	家事全般	洗濯	☒ 有	洗濯物干し	☒ 有	やったことがないので支援が必要		
		掃除	☒ 有	衣類整理	☒ 有	片づけなどは苦手、声掛けが必要		
				所持品整理	☒ 有	片づけなどは苦手、声掛けが必要		
				ペットメイク	☐ 有			
	特記事項 父親がある程度身の回りのこと（調理、洗濯、掃除など）はやってくれていた。太郎さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまふ。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験がないが、援助があればできるようになると予測できる（今までの生活の様子から、父親が予測）。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。							
コミュニケーション	困ったときに相談しているところ 生活上の支援機関、支援者など 相談支援センター「ひまわり」・・・サービス等利用計画作成 相談支援 就労センター「スマイル」・・・利用予定の就労継続支援B型 グループホーム「ピアハウス」・・・利用予定のグループホーム 西村病院（内科・精神科）・・・外来通院先 意思の表現方法 言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事ができている。手順が分かれば、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかった。周りの人は分かっていると思って仕事をすすめてしまうので、本人は分からずに少しパニックになってしまうことがあった。							
社会参加・移動	好きなこと 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど 嫌いなこと 怖そうな人・すぐに怒りそうな人 移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう							
家庭生活	グループホームで生活をする予定 家庭での主な介護者 父親 介護者の状況 もともとは大工。交通事故で右半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。							
経済状況	主な生活財源 生活保護受給中。 預貯金 就労による収入 0円/月 0円 ☒ 基礎年金申請中 ☐ 障害者特別手当 ☐ その他 金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。							

	項目	介助が いるか	程度	特記事項		
行動面	行動面での障害1	こたわり行動	☒ 有	自分の手順があり、変更されるとパニックになる	特別支援学校卒業後は、製造部品を作る工場に就職していた。面倒見の良い上司の元では、素直に支持を受け入れ、元上司も根気よく教えてくれていたらしく、安心して働いていた。上司が変わり、あまり面倒見てもらえなくなってからは、「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」など心配を訴え退職した。 本人は、周りの人からは仕事のことなど分かっていると思われるタイプで、仕事が断れない。仕事で困っていても、自分から相談したりできず、どんどん抱え込んでしまい不安をたくさん抱えてしまう。 2年ほど自宅で引きこもり状態。父親が交通事故にあい、右半身に麻痺がのこり、本人の面倒が見られなくなった。 声掛けがあれば、家のことを少し手伝ったが、どのように進めれば良いのか分からなくなってしまうことが度々あった。調理、洗濯、掃除の仕方など根気よく教えてくれる人がいなかったなので、経験が積み重なったのだと思う。 仕事についても、以前の会社で人間関係がこじれてしまって離職したので、働きながら何か困ったときには相談できること、サポートを受けながら就労できるB型事業所の利用を希望した。 見守りの環境が整えば、力を発揮することは可能だと感じる。	
		徘徊	☐ 有			
		無断外出 無断外泊	☐ 有			
		錯覚・幻視・幻聴	☐ 有			
		被害妄想	☒ 有	近所の人たちからハカにされていると思っている。		
		自殺願望・企画	☐ 有			
		不潔行為	☒ 有	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、放っておかれると着替えたりできない。		
		異食行為	☐ 有			
		収集癖	☐ 有			
		物忘れ	☐ 有			
	行動面での障害2	反社会的行為 (盗癖、虚言など)	☐ 有			
		自傷行為	☐ 有			
		他者に対する 粗暴行為	☐ 有			
		器物に対する 粗暴行為	☐ 有			
		奇声や騒がしさ	☐ 有			
		パニック	☒ 有	物事の進め方が分からないと起きる。		
		多動・行動の停止	☐ 有			
		思考障害	☐ 有			
		感情・障害 害思	感情不安定	☒ 有		困ってしまうと感情も不安定になる。
			過大・過小評価	☐ 有		

《その他》

主治医からは、薬は軽いものなので、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性ができると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。



事例の登場人物一覧

役柄	氏名	よみがな	
本人	徳島 太郎	とくしま たろう	
父親	徳島 一平	とくしま いっぺい	
弟	徳島 次郎	とくしま じろう	
相談支援センター ひまわり 相談支援専門員	鳴門 ひろし	なると ひろし	
グループホーム ピアハウス サービス管理責任者	北島 たかし	きたじま たかし	
グループホーム ピアハウス 世話人	三好 よしこ	みよし よしこ	
就労支援 B 型事業所 スマイル サービス管理責任者	板野 かおり	いたの かおり	
就労支援 B 型事業所 スマイル 職業指導員	吉野 まさお	よしの まさお	

サービス等利用計画 (案)

利用者氏名	徳島 太郎	障害支援区分	区分 3	相談支援事業者名	相談支援センターひまわり
障害福祉サービス受給者証番号	000XXX##	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	嶋門 ひろし
地域相談支援受給者証番号	000XXX???	通所受給者証番号	000XXX\$\$\$		

計画作成日	令和 7 年 6 月 5 日	モニタリング期間 開始年月)	令和 7 年 8 月	利用者同意署名欄	
-------	----------------	----------------	------------	----------	--

利用者及びその家族の生活に対する意向 希望する生活)	太郎さんは、特別支援学校の高等部卒業後一般企業で働いていたが、「上司の注意が怖い。仕事に集中できない」と言って退職した後、ひきこもりがちな生活をしてきた。昨年、父親が交通事故で右半身に後遺症が残り、太郎さんの面倒を見られなくなった。太郎さんは、「父親に世話になったので迷惑をかけたくない」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」「自分のことは自分でできるようになりたい」という希望を持っているが、「今は朝も起きられない」「働く自信もない」のでそのための「準備をしたい」と思っている。また、「困りことは相談したい」という気持ちがあり、一人暮らしに向けた準備をするためのグループホームの利用と就労に向けて準備をするための就労継続支援B型の通所を希望している。また、「昆虫の話ができる友達が欲しい」と思っている。 父親は「私も体が不自由になってしまい 太郎の面倒はみられません。太郎 には福祉サービスを利用して自立してほしい」と言っている。				
-------------------------------	--	--	--	--	--

総合的な援助の方針	グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみをみつけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。				
-----------	---	--	--	--	--

長期目標	① グループホームでは、掃除や洗濯、調理等の生活していく上での力をつける。
	② 就労継続支援B型事業所では、仕事を続けていくうえでの自信をつける。
	③ 相談する力をつける。
短期目標	④ この間に見つけた昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて相談する。
	① グループホームの日常生活に慣れる。
	② 就労継続支援B型事業所の作業に慣れる。
	③ わからないことや困っていることを相談する。
	④ 昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて相談する。

優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成 時期	福祉サービス等		課題解決のための 本人の役割	評価 時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)				
1	グループホームで一人暮らしに向けた準備をしたい。	グループホームの生活に慣れて、掃除や洗濯、調理等自分でできることを増やす。	12ヶ月	グループホーム	毎日	スケジュールを覚えて生活リズムを身につける。掃除や洗濯、調理の仕方は、世話人さんに教えてもらいます。	3ヶ月	*朝なかなか起きることができない
1	今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。	いろいろな作業経験を積んで得意なことを見つける。	12ヶ月	就労継続支援B型	月～金	就労継続支援事業所での作業を通して経験を増やします。	3ヶ月	*朝なかなか起きることができない
3	困りごとは相談したい。	生活のこと、仕事のことで困ったり、不安だったりしたことを相談できるようにする	6ヶ月	グループホーム	毎日 就労継続支援B型 月～金 相談支援事業所 随時 病院 4週間に1回 土曜	グループホームで一日の出来事を報告します。 仕事については、就労継続支援事業所で相談します。 服薬をして定期的に通院します。	1ヶ月	
4	楽しみをみつけない。	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴きます。	6ヶ月	グループホーム	毎日 就労継続支援B型 相談支援事業所	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かせてください。	3か月	

利用体験の記録

グループホーム ピアハウス

体験者	徳島太郎さん	期間	3日間	記録者	世話人
様子	・日常生活動作（ADL）は自立しているが、一部整容等は声掛けが必要 ・当初は緊張と不安もみられたが、次第に緩和してきた様子 ・精神面も安定している ・自発的な相談等はなし ・声掛け助言に対しては素直に応えることができる ・同居者とのトラブルはないが、関わりも少ない ・家事全般は経験が少なく、支援が必要だか、習得していける可能性あり ・食べ物に偏りは少ないが、体重が気になる（減量が必要？） ・服薬（夜寝る前）は自身管理（本人は飲んでいるとのこと） ・就労 B については「楽しい」と言っている ・朝が起きづらい（声掛けが必要）				

利用体験の記録

就労継続支援 B 型 スマイル

体験者	徳島太郎さん	期間	3日間	記録者	職業指導員
様子	・送迎サービスを利用（バス通所の可能性あり） ・朝迎え時時間に遅れてしまうことがある ・当初は緊張と不安もみられたが、次第に緩和してきた様子 ・期間中、予定通り通所（休みなし） ・「部品の組み立て」作業を体験 ・作業の意欲も感じられ作業指示には素直に従うことができる ・作業には終日、集中力を保ってできており早退はなし ・手順はゆっくりと説明することで習得できている ・精神的には安定しているが、ミスがあった場合等はイライラしている場面もあり ・精神面は安定しているが、父親の心配する発言もあり ・他の利用者とのトラブルはないがまだ関わりも少なく、主として職員とのみ会話 ・グループホームでの生活については「楽しい」と言っている				

演習 1・2 役割分担表								
	A	B	C	D	E	F	備考	
演習 1	事前準備シート グループワーク	司会	記録					
	サービス担当者会議 ロールプレイ	就労 サビ管	グループホーム サビ管	本人	父親	相談支援 専門員	観察者	
	ロールプレイ振り返り グループワーク		記録			司会 (5人班はA)	ロールプレイの観察者が司会	
	ニーズの整理 グループ共有			司会	記録			
	本人との面談ロールプレイ 振り返り						各班フアシリが司会 (記録なし)	
	個別支援計画の作成 グループワーク		司会	記録			発表班は指名 発表者はグループ内で相談	
	個別支援計画の作成 振り返り						各班フアシリが司会 (記録なし)	
	サービス担当者会議 ロールプレイ (グループホーム班)	本人	観察者	父親	相談支援 専門員	グループホーム サビ管	世話人 (5人班はなし)	就労B班より就労サビ管役が参加
	振り返り (グループホーム班)		司会					観察者役が司会 (記録はなし)
	サービス担当者会議 ロールプレイ (就労B班)	父親	本人	相談支援 専門員	就労 サビ管	観察者	職業指導員 (5人班はなし)	グループホーム班より グループホームサビ管役が参加
演習 2	振り返り (就労B班)				司会		観察者役が司会 (記録はなし)	
	個別支援計画の修正 グループワーク		司会			記録 (5人班はB)		
	個別支援計画の修正案 発表 (説明)	発表					ペアとなった班で発表	

演習 1 模擬サービス担当者会 観察メモ

【各配役の様子】

配役	気づいたこと等
相談支援専門員	
本人	
父親	
グループホーム サビ管	
就労 B サビ管	

【振り返りの進行】

1. 観察役として、各配役の気づいたことなどを報告
2. 各配役に感想を聞く
 - ・〇〇役として、自分自身が感じたこと
 - ・〇〇役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったこと
 - ・〇〇役として、△△役の言動に抱いた感情 等

演習2 模擬サービス担当者会 観察メモ（グループホーム班）

【各配役の様子】

配役	気づいたこと等
相談支援専門員	
本人	
父親	
グループホーム サビ管	
グループホーム 世話人 （5人班はなし）	
就労Bサビ管	

【振り返りの進行】

1. 観察役として、各配役の気づいたことなどを報告
2. 各配役に感想を聞く
 - ・〇〇役として、自分自身が感じたこと
 - ・〇〇役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったこと
 - ・〇〇役として、△△役の言動に抱いた感情 等

演習 2 模擬サービス担当者会 観察メモ（就労 B 班）

【各配役の様子】

配役	気づいたこと等
相談支援専門員	
本人	
父親	
グループホーム サビ管	
就労 B サビ管	
就労 B 職業指導員 (5 人班はなし)	

【振り返りの進行】

1. 観察役として、各配役の気づいたことなどを報告
2. 各配役に感想を聞く
 - ・〇〇役として、自分自身が感じたこと
 - ・〇〇役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったこと
 - ・〇〇役として、△△役の言動に抱いた感情 等